

附

錄

諸 規 程

文科大學規程 (明治三十九年八月十六日制定)

第一 授 業

第一條 本學ニ哲學科、史學科、文學科ヲ置ク

第二條 各學科ニ屬スル科目ヲ分チテ正科目及副科目トナス

一 哲 學 科

正 科 目

哲學 西洋哲學史 印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學教授法 美學美術史 宗教學 社會學

副 科 目

生物學 生理學 精神病學 文學概論 國文學 支那文學 經濟學 統計學 教育行政法 英語 佛蘭西語
獨逸語 梵語 希臘語 羅甸語

二 史 學 科

正 科 目

國史 支那史 東洋史 西洋史 最近世史 史學研究法 地理學

副 科 目

古文書學 哲學概論 心理學 教育學教授法 美學美術史 社會學 文學概論 國文學 支那文學 英語
獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 支那語 朝鮮語 希臘語 羅甸語

三 文 學 科

正 科 目

文學概論 國語學 國文學 支那語學支那文學 ○英文學 ○獨逸文學 ○佛蘭西文學 ○梵語學梵文學
言語學

專攻科目トセサル○符ノ科目ノ普通講義ハ其一ヲ選フヘシ

副 科 目

英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 支那語 朝鮮語 アイヌ語 梵語 羅甸語 希臘語 哲學概論 心理
學 教育學教授法 美學美術史

第三條 前條ノ科目ハ三學年ニ配當シテコレヲ授ク

第四條 學生ハ三學科中ノ正科目ニ屬スル一科目ヲ選ヒテ專攻科目トスヘシ

第五條 各學科正科目ノ授業ハ之ヲ普通講義特殊講義及ヒ演習ニ分チ普通講義ハ該科目ノ屬スル學科ノ學生一般
ヲシテ必修セシメ特殊講義及ヒ演習ハ專攻科目ニヨリ其必修スヘキモノヲ定ム

副科目ハ當該學科ノ學生ヲシテ隨意ニ聽講セシム

但專攻科目ニ依リ必修トナスコトアルヘシ

第六條 學生ニシテ所屬學科以外ノ科目ヲ聽講セントスルモノハ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 普通講義特殊講義及ヒ演習ノ時數ハ各一週二時間乃至四時間トス

第二 試 問

第八條 試問ヲ分チテ科目試問及ヒ論文試問トス

科目試問ハ毎年六月之ヲ行フ學生ハ其科目ノ聽講ヲ了リタル學年ニ於テ其試問ヲ受クヘシ
論文試問ハ專攻科目ノ範圍ニ屬スル論題ニツキ學生ノ提出シタル論文ノ審査及ヒ其論文ニ關スル口頭試問ヨリ
成ル

第九條 各科目特殊講義ノ試問ハ該科目普通講義ノ試問ニ合格シタル者ニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

三學年在學ノ者ニアラサレハ論文試問ヲ受クルコトヲ得ス

第十條 論文試問ハ學長ノ指定シタル教官講師之ヲ行フ

第十一條 科目試問及ヒ論文試問ノ及第ヲ以テ卒業トス

第三 在 學

第十二條 在學ハ六年以上ニ亘ルコトヲ得ス 但兵役ノ爲メ許可シタル休學日數ハ之ヲ算入セス

第四 選 科 生

第十三條 選科生ハ左ノ資格ヲ有スル者及教授會ニ於テ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニツキ試問ヲ行ヒ、教授
會ノ議ヲ經テ其入學ヲ許可ス

一 師範學校中學校卒業生

二 當該學科ニ關シ師範學校中學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

○大正十二年一月八日改正要點

第二條ノ二 史學科副科目古文書學の前ニ「考古學」を加う。

○大正十四年十二月二十八日改正要點

第二條ノ二 史學科副科目中より「考古學」を削除し、同項正科目の終りに「考古學」を加う。

第十四條 選科生ニ對シテハ試験ヲ行ハサルコトヲ得」を追加す。

○大正十五年十一月五日改正要點

第二條ノ一 哲學科正科目の終りに「佛教學」を加え、印度哲學史と共にその頭に○印を附し、且つその末項に「○符ノ科目ノ普通講義ハ其一ヲ選フヘシ、但右科目ノ内其一ヲ專攻セントスル者ニアリテハ當該科目ヲ選フヘシ」を加う

○昭和七年三月七日改正要點

第二條ノ二 史學科正科目中の「支那史」及び「最近世史」を削除す。

第二條ノ三 文學科正科目中の「國語學」と「國文學」を合して「國語學國文學」に改む。

第四條の終りに、「但史學科ノ史學研究法、及文學科ノ文學概論ハ專攻科目ヨリ除ク」を加う。

○昭和十三年三月二十六日改正要點

第二條ノ一 哲學科正科目に「日本精神史」を加え、正科目○印の科目の選擇に關し「○符ノ科目ノ普通講義ハ之ヲ專攻科目トセサル場合ニ限り其一ヲ選フヘシ」と改め、副科目に「露西亞語」、「伊太利語」、「支那語」を加う

第二條ノ二 史學科正科目に「日本精神史」を加え、副科目に「人類學」、「伊太利語」、「梵語」を加う。

第二條ノ三 文學科正科目に「日本精神史」を加え、副科目に「伊太利語」を加う。

第三條 「但副科目ニ屬スルモノノ中ニハ學年ニヨリ授業ヲ爲サルモノアルヘシ」の但書を加う。

第四條 專攻科目は「所屬學科ノ正科目ノ一」を選ぶべきことに字句を改め、又但書に於て「日本精神史」は專攻科目より除くことに定む。

第五條 「尙科目ニヨリ別ニ講讀又ハ實習ヲ課シ之ヲ必修セシムルコトアルヘシ」を追加す。

第七條 現行條文に「各種ノ」の三字を加え、個個の普通講義、特殊講義及び演習の時數を定むるものなること明らかならず。

第八條 現行の第八條一項を獨立せしめて第八條とし、二項、三項はこれを第九條及び第十條に移す。

第九條 現行第八條二項、第九條一項の科目試問に關する規程を纏め、試問時期を變更することあるべき但書を加え「科目試問ハ學生ノ履修シタル科目ニ付其學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ但科目ニヨリ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ其時期ヲ變更スルコトアルヘシ各科目特殊講義ノ試問ハ該科目普通講義ノ試問ニ合格シタル者ニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス」とす。

第十條 現行第八條三項、第九條二項、第十條の論文試問に關する規程を纏め、「論文試問ハ科目試問ニ合格シタル者ニ對シ専攻科目ノ範圍ニ關スル論題ニツキ之ヲ行フ 三學年以上在學ノ者ニアラサレハ論文試問ヲ受クルコトヲ得ス 論文試問ハ論文ノ審査及ヒ之ニ關スル口頭試問ヨリ成リ教授會ニ於テ指定シタル教官講師之ヲ行フ」とす。

第十一條 新たに科目試問、論文試問に關し届出および提出の時期を定む。

第十二條(現第十一條) 通則改正に従い、「卒業」を「學士試験合格」に改む。

第十三條(現第十二條) 通則改正に従い、休學期間はすべて在學期間に算入せざることとし、「但休學期間ハ之ヲ在學年ニ算入セス」と改む。

第十四條 新たに「第十二條ノ學士試験ニ合格シタル者ハ學籍ヲ脱ス」と定む。

第十七條 通則改正に従い、新たに「學生票ハ入學ノ始ニ之ヲ交付ス 學籍ヲ脱シタルトキハ學生票ヲ返付スヘシ」と定む。

第十八條 「本學部ニ入學ヲ許可セラレタル者ハ本學部ノ行フ身體検査ヲ受クルコトヲ要ス」を加う。

第十九條 「再入學ヲ志望スル者及休學期間中復學セントスル者其出願又ハ届出ヲ爲シタルトキハ之ニ對シ身體検査ヲ行フコトアルヘシ休學期間ノ經過ニ因リ復學シタル者亦同シ」を加う。

○昭和十四年一月二十五日改正要點

第二條ノ三 文學科正科目の中に「西洋古典文學」を加え、また「國語學國文學、支那語學支那文學ヲ專攻スル場合ニ於テハ、○符ノ科目ノ普通講義及西洋古典文學ノ普通講義ノ中其一ヲ選フヘシ」を加う。

文學部規程 (昭和十六年三月一日改正)

第一 授 業

第一條 本學部ニ哲學科、史學科、文學科ヲ置ク

第二條 各學科ニ屬スル科目ヲ分チテ正科目及ヒ副科目トナス

(一) 哲 學 科

正 科 目

哲學 西洋哲學史 ○印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學教授法 美學美術史 宗教學 社會學 ○佛教學 日本精神史

副 科 目

○符ノ科目ノ普通講義ハ之ヲ專攻科目トセサル場合ニ限り其一ヲ選フヘシ

生物學 生理學 精神病學 文學概論 國文學 支那文學 經濟學 統計學 教育行政法 英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 梵語 希臘語 羅甸語 西班牙語

(一) 史 學 科

正 科 目

國史 東洋史 西洋史 史學研究法 地理學 考古學 日本精神史

副 科 目

古文書學 人類學 哲學概論 心理學 教育學教授法 美學美術史 社會學 文學概論 國文學 支那文學
英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 朝鮮語 梵語 希臘語 羅甸語 西班牙語

(二) 文 學 科

正 科 目

文學概論 國語學國文學 支那語學支那文學 ○英文學 ○獨逸文學 ○佛蘭西文學 ○梵語學梵文學 西
洋古典文學 ○伊太利語學伊太利文學 言語學 日本精神史

專攻科目トセサル○符ノ科目ノ普通講義ハ其一ヲ選フヘシ

國語學國文學、支那語學支那文學ヲ專攻スル場合ニ於テハ○符ノ科目ノ普通講義及西洋古典文學ノ普通講
義ノ中其一ヲ選フヘシ

副 科 目

英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 朝鮮語 アイヌ語 梵語 希臘語 羅甸語 西班
牙語 哲學概論 心理學 教育學教授法 美學美術史

第三條 前條ノ科目ハ三學年ニ配當シテ之ヲ授ク但副科目ニ屬スルモノノ中ニハ學年ニヨリ授業ヲ爲ササルモノ
アルヘシ

第四條 學生ハ所屬學科ノ正科目ノ一ヲ選ヒテ專攻科目トスヘシ但史學研究法、文學概論、日本精神史ハ專攻科

目ヨリ除ク

第五條 各學科正科目ノ授業ハ之ヲ普通講義特殊講義及ヒ演習ニ分チ普通講義ハ該科目ノ屬スル學科ノ學生一般ヲシテ必修セシメ、特殊講義及ヒ演習ハ專攻科目ニヨリ其必修スヘキモノヲ定ム尙科目ニヨリ別ニ講讀又ハ實習ヲ課シ之ヲ必修セシムルコトアルヘシ

副科目ハ當該學科ノ學生ヲシテ隨意ニ聽講セシム但專攻科目ニヨリ必修トナスコトアルヘシ

第六條 學生ニシテ所屬學科以外ノ科目ヲ聽講セントスルモノハ學部長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 各種ノ普通講義特殊講義及ヒ演習ノ時數ハ一週二時間乃至四時間トス

第二 試 問

第八條 試問ヲ分チテ科目試問及ヒ論文試問トス

第九條 科目試問ハ學生ノ履修シタル科目ニ付其學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ但科目ニヨリ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ其時期ヲ變更スルコトアルヘシ

第十條 各科目特殊講義ノ試問ハ該科目普通講義ノ試問ニ合格シタル者ニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス
第十條 論文試問ハ科目試問ニ合格シタル者ニ對シ專攻科目ノ範圍ニ關スル論題ニツキ之ヲ行フ
三學年以上在學ノ者ニアラサレハ論文試問ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 論文試問ハ論文ノ審査及ヒ之ニ關スル口頭試問ヨリ成リ教授會ニ於テ指定シタル教官講師之ヲ行フ
第十一條 科目試問ヲ受ケントスル者ハ一月三十一日迄ニ受験科目ヲ届出ツヘシ但第九條第一項但書ニヨリ試問時期ヲ變更スル場合ニ於テハ別ニ届出ノ期限ヲ定ム

第十二條 論文試問ヲ受ケントスル者ハ十一月三十日迄ニ題目ヲ届出テ翌年一月十五日迄ニ論文ヲ提出スヘシ
第十二條 科目試問及ヒ論文試問ニ合格シタル者ハ大學令第十條ニ依ル學士試驗ニ合格シタルモノトス

第三 在 學

第十三條 在學ハ六年ヲ超ユルコトヲ得ス但休學期間ハ之ヲ在學年ニ算入セス

第十四條 第十二條ノ學士試驗ニ合格シタル者ハ學籍ヲ脱ス

第四 選 科 生

第十五條 選科生ハ左ノ資格ヲ有スル者及ヒ教授會ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者ニツキ試問ヲ行ヒ教授會ノ議ヲ經テ其入學ヲ許可ス

一 師範學校、中學校卒業生

二 當該學科ニ關シ師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

第十六條 選科生ニ對シテハ試問ヲ行ハサルコトヲ得

第五 學 生 票

第十七條 學生票ハ入學ノ始ニ之ヲ交付ス

學籍ヲ脱シタルトキハ學生票ヲ返付スヘシ

第六 身 體 檢 査

第十八條 本學部ニ入學ヲ許可セラレタル者ハ本學部ノ行フ身體檢査ヲ受クルコトヲ要ス

第十九條 再入學ヲ志望スル者及休學期間中復學セントスル者其出願又ハ届出ヲ爲シタルトキハ之ニ對シ身體檢査ヲ行フコトアルヘシ休學期間ノ經過ニ因リ復學シタル者亦同シ

附 則

第二十條 本規程ハ昭和十三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

授業並ニ試問ニ關スル臨時措置 (昭和十九年十月一日決定)

授業並ニ試問ニ關スル臨時措置トシテ當分ノ間「文學部規程」ノ一部ヲ適用セサルコトトシ且若干ノ變更ヲ加フルコト次ノ如シ

第一 授 業

第一條 木學部ニ哲學科、史學科、文學科ヲ置ク
第二條 各學科ニ屬スル科目ヲ分チテ正科目及ヒ副科目トナス

(一) 哲 學 科

正 科 目

哲學 西洋哲學史 印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學教授法 美學美術史 宗教學 社會學 佛教學 日本精神史

副 科 目

生物學 生理學 精神病學 文學概論 國文學 支那文學 經濟學 統計學 教育行政法 英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 梵語 希臘語 羅甸語 西班牙語

(二) 史 學 科

正 科 目

國史 東洋史 西洋史 史學研究法 地理學 考古學 日本精神史

副 科 目

古文書學 人類學 哲學概論 心理學 教育學教授法 美學美術史 社會學 文學概論 國文學 支那文學

英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 朝鮮語 梵語 希臘語 羅甸語 西班牙語
(三) 文學 科

正 科 目

文學概論 國語學國文學 支那語學支那文學 英文學 獨逸文學 佛蘭西文學 梵語學梵文學 西洋古典文學 伊太利語學伊太利文學 言語學 日本精神史

副 科 目

英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 朝鮮語 アイヌ語 梵語 希臘語 羅甸語 西班牙語 哲學概論 心埋學 教育學教授法 美學美術史

第三條 前條ノ科目ハ三學年ニ配當シテ之ヲ授ク 但副科目ニ屬スルモノ中ニハ學年ニヨリ授業ヲ爲ササルモノアルヘシ

第四條 學生ハ所屬學科ノ正科目ノ一ヲ選ヒテ專攻科目トスヘシ 但史學研究法、文學概論、日本精神史ハ專攻科目ヨリ除ク

第五條 (第一項不適用)

副科目ハ當該學科ノ學生ヲシテ隨意ニ聽講セシム 但專攻科目ニヨリ必修トナスコトアルヘシ

第六條 (不適用)

第七條 (不適用)

第 二 試 問

第八條 試問ヲ分チテ科目試問及ヒ論文試問トス

第九條 科目試問ハ學生ノ履修シタル科目ニ付之ヲ行フ

(第二項不適用)

第十條 論文試問ハ科目試問ニ合格シタル者ニ對シ專攻科目ノ範圍ニ關スル論題ニツキ之ヲ行フ

二年間以上在學シタル者ハ論文試問ヲ受クルコトヲ得

論文試問ハ教授會ニ於テ指定シタル教官講師之ヲ行フ

第十一條 科目試問ヲ受ケントスル者ハ豫告セラレタル日迄ニ受験科目ヲ届出ツヘシ

論文試問ヲ受ケントスル者ハ豫告セラレタル日迄ニ題目ヲ届出テ 豫告セラレタル日迄ニ論文ヲ提出スヘシ

附 記

本措置ハ昭和十九年十月一日ヨリコレヲ實施シ各學年生一般ニ適用セラレルヘキモノトス

京都帝國大學文學部規程

(昭和二十一年三月三十日改正)

第 一 學 科

第一條 本學部ニ左ノ三學科ヲ置ク

哲學科、史學科、文學科

第二條 三學科ニ分屬スル專攻科目ハ次ノ如シ

哲 學 科

哲學 西洋哲學史 印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學教授法 美學美術史 社會學 宗

教學 佛教學

史 學 科

國史學 東洋史學 西洋史學 考古學 地理學

文學科

國語學 國文學 支那語學 支那文學 イギリス文學 フランス文學 イタリア語學 イタリア文學 梵語學 梵文學 西洋古典文學 ドイツ文學 言語學

第二 研究

第三條 研究科目ハ次ノ如シ、但シ時宜ニ由リテ施行セラレサルモノアルヘシ

哲學 西洋哲學史 印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學 美學 美術史學 社會學 宗教學
佛敎學 基督敎學 論理學 科學概論 科學史 數學 數理哲學 物理學 生物學 生理學 精神病學 精神工學 法律哲學 法制史 政治學 經濟學 統計學 教育行政法 史學研究法 國史學 東洋史學 西洋史學 考古學 地理學 地質學 人類學 民族學 民俗學 神話學 古文書學 書誌學 日本思想史 印度學 支那學 イスラム學 古代西亞學 文藝學 國文學 國語學 支那文學 支那語學 イギリス文學 アメリカ文學 フランス文學 ドイン文學 イタリア文學 ロシア文學 北歐文學 梵文學 梵語學 ギリシヤ文學 ラテン文學 言語學 梵語 巴利語 印度諸語 西藏語 アヴェスタ語 ギリシヤ語 ラテン語 中世ラテン語 イタリア語 ポルトガル語 イスパニア語 プロヴァンス語 フランス語 ロシア語 ゴート語 北歐諸語 ドイツ語 オランダ語 イギリス語 アラビア語 ヒブル語 支那語 マヂアール語 滿洲語 蒙古語 トルコ語 朝鮮語 琉球語 アイヌ語 南亞諸語 北亞諸語 中亞諸語 アメリカ諸語 フリカ諸語

第三 試問

第四條 試問ヲ分チテ科目試問並ニ論文試問トス

第五條 科目試問ノ單位及ソノ數ハ別ニコレヲ定ム

第六條 論文試問ハ所定ノ科目試問ニ合格シ且ツ三學年在學シタル者ニ對シテ行ハルヘシ

但シ論題ハ專攻科目ノ範圍内ニコレヲ限ル

第七條 論文ハ教授會ノ指定シタル教官コレヲ審査ス

第八條 試問實施ノ期日ソノ他ニツキテハ豫メ告知セラルヘシ

第九條 所定ノ科目試問竝ニ論文試問ヲ通過シタル者ハ大學令第十條ニ依ル學士試驗ニ合格シタルモノトス

第四 在 學

第十條 在學ハ三年ヲ原則トス但シ休學期間ハコレニ算入セス

第五 選 科 生

第十一條 左ノ資格ヲ有スル者及ヒコレト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者ハ別ニ定ムルトコロノ規則ニ從ヒ

選科生トシテソノ入學ヲ許可セラルヘシ

一 中等學校卒業者

二 專攻志望科目ニ該當スル中等教員免狀ノ所有者

第六 聽 講 生

第十二條 教授會ノ銓衡ヲ經テ聽講生ノ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

聽講生ノ取扱ソノ他ニツキテハ別ニコレヲ定ム

附 則

第十三條 本規程ハ昭和二十一年四月一日ヨリコレヲ施行ス

第十四條 本規程ハ昭和二十年四月以降ニ入學シタル者ニコレヲ適用ス

京都大學文學部規程

(昭和二十四年十二月十九日制定)

第一 學 科

第一條 本學部に哲學科、史學科及び文學科を置く

第二 入 學

第二條 入學者の選抜方法は教授會で定める

第三 授 業

第三條 授業は一般教養科目及び専門科目に分けて行う

第四條 一般教養科目は左の通りとする

人文科學

哲學 倫理學 心理學 社會學 宗教學 藝術學 論理學 教育學
國史學 東洋史學 西洋史學 人文地理學 現代世界史 人類學
文學 國語學 國文學 漢文學 英語 獨語 佛語 露語 中國語

社會科學

法學 政治學 經濟學 統計學 生活科學

自然科學

數學 物理學 化學 生物學 地學 天文學

體 育

2 一般教養科目の配當及び授業時數は分校の定めるところによる
第五條 専門科目を分けて専攻科目及び副科目とする

2 専攻科目は左の通りとする

哲學科

哲學 西洋哲學史 印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學教授法 美學美術史 社會學 宗
教學 佛教學 基督教學

史學科

國史學 東洋史學 西洋史學 考古學 人文地理學

文學科

國語學國文學 中國語學中國文學 西洋古典語學西洋古典文學 英語學英文學 獨語學獨文學 佛語學佛
文學 伊太利語學伊太利文學 梵語學梵文學 言語學
3 副科目は每學年の初めに定める

第四 試 驗

第六條 試験は科目試験及び論文試験とする

2 科目試験の單位及びその數については別に定める

3 論文試験は所定の科目試験に合格した者に對して行う

但し論題は専攻科目の範圍内に限る

第七條 前條の論文は教授會の指定した教官が審査する

第八條 試験實施の期日その他については豫め告知する

第九條 四年以上在學し一般教養科目四十單位、専門科目八十單位（論文を含む）體育四單位以上を取得した者は通則第二十一條に定める學士試験合格者とする

2 一般教養科目の試験については分校の定めるところによる

第五 在 學

第十條 在學は七年を超えることができない

第六 轉學及轉科

第十一條 他の大學生又は本學他學部學生で本學部に轉學を志望する者若くは本學部學生で轉科を志望する者があるときは銓衡の上教授會の議を経て許可することがある

第七 聽 講 生

第十二條 特定の科目につき聽講を志望する者があるときは教授會の銓衡を経て聽講生として入學を許可することがある

2 聽講生の取扱その他については別に定める

附 則

1 この規程は昭和二十四年六月一日から施行する

2 明治三十九年八月十六日制定の文學部規程は廢止する

3 國立學校設置法附則第三項規定の實施に關しては別段の定めをなすまでなお従前の規程による

○昭和二十五年十月二日改正要點

附則第三項を「舊規程による入學者については別段の定めをなさない限りなお舊規程を適用する」に改める。

○昭和二十八年四月七日改正要點

第三條 「一般教養科目」とあるのを「一般教育科目、補助科目(外國語)、體育科目」に改める。

第四條 同様に「一般教養科目」を「一般教育科目、補助科目(外國語)、體育科目」と改め、各科目をつぎのようにする。

一、 一般教育科目

人文科學關係

哲學、論理學、倫理學、宗教學、藝術學、國史學、東洋史學、西洋史學、東洋社會思想史、西洋社會思想史、文學、日本文學、言學、國語國文學、漢文學、社會學、心理學、教育學、人文地理學、史學概論、世界史第一部、世界史第二部、文化人類學

社會科學關係

法學、日本國憲法、政治學、經濟學、社會學、心理學、教育學、人文地理學、國史學、東洋史學、西洋史學、東洋社會思想史、西洋社會思想史、社會統計學、史學概論、文化人類學、生活科學

自然科學關係

自然科學、數學、物理學、化學、生物學、地學、近代物理學、天文學、自然人類學、工業概論、生活科學

二、補助科目

英語、獨語、佛語、中國語、露語

三、體育科目

體育生理、體育衛生、體育理論、體育實技

第九條 單位規定を定め、「一般教育科目三十六單位以上（但し人文科學關係、社會科學關係、自然科學關係各十二單位以上）、補助科目十六單位以上（二ヶ國語について各八單位以上）、體育科目四單位以上、専門科目八十四單位以上（論文を含む）を取得した者は」とする。

附則として、「この規程は、昭和二十六年四月一日以降の入學者から適用する」を追加する。

○昭和二十九年五月二十五日改正要點

第三條として、新たに「入學者の決定は、教授會で行う」を加える。

第五條(舊第四條)の一、「一般教育科目のうち、人文科學關係科目中の「世界史第一部、世界史第二部」を「世界史」と改め、社會科學關係科目中に「世界史」、自然科學關係科目中に「自然科學史」を加える。

第六條(舊第五條)の2、哲學科専攻科目より「教育學教授法」を除く。

第十條(舊第九條)の2、「分校」を「教養部」に改める。

京都大學文學部規程

(昭和三十年四月五日改正)

第一 學科及び専攻

第一條 本學部におく學科及び専攻は、次のとおりとする。

哲學科

哲學、西洋哲學史、印度哲學史、支那哲學史、心理學、倫理學、美學美術史、社會學、宗教學、佛教學、基督教學

史學科

諸規程

國史學、東洋史學、西洋史學、考古學、人文地理學

文學科

國語學、國文學、中國語學、中國文學、梵語學、梵文學、フランス語學、フランス文學、英語學、英文學、ドイツ語學、ドイツ文學、西洋古典語學、西洋古典文學、イタリア語學、イタリア文學、言語學

第二 入 學

第二條 入學者の選抜方法は、教授會で定める。

第三條 入學者の決定は、教授會で行う。

第三 修 學

第四條 授業は、一般教育科目、外國語、基礎科目、體育科目及び専門科目に分けて行う。

第五條 一般教育科目、外國語、基礎科目及び體育科目は、次のとおりとする。

一、一般教育科目

人文科學關係

哲學、論理學、倫理學、宗教學、藝術學、國史學、東洋史學、西洋史學、東洋社會思想史、西洋社會思想史、文學、日本文學、言學、國語國文學、漢文學、社會學、心理學、教育學、人文地理學、史學概論、世界史、文化人類學

社會科學關係

法學、日本國憲法、政治學、經濟學、社會學、心理學、教育學、人文地理學、國史學、東洋史學、西洋史學、世界史、東洋社會思想史、西洋社會思想史、社會統計學、史學概論、文化人類學、生活科學

自然科學關係

自然科學、自然科學史、數學、物理學、化學、生物學、地學、近代物理學、天文學、自然人類學、工業概論、生活科學

二、外國語

英語、ドイツ語、フランス語、中國語、ロシア語

三、基礎科目

英語、ドイツ語、フランス語

四、體育科目

體育生理、體育衛生、體育理論、體育實技

2 前項各號の科目配當及び授業時間數は、教養部の定めるところによる。

第六條 四年の修學期間を前期二年及び後期二年に分け、一般教育科目、外國語、基礎科目及び體育科目は、前期二年に、専門科目は、後期二年に配當する。但し、若干の専門科目を前期二年に配當することがある。

第七條 前期二年において次の單位を修得したものでなければ、後期二年における専門科目を履修することができない。前期二年に配當された専門科目については、この限りでない。

一般教育科目 人文科學關係、社會科學關係、自然科學關係それぞれ十二單位以上、合計三十六單位以上
外國語 第一外國語（英語、ドイツ語、フランス語のうち一）、第二外國語（英語、ドイツ語、フランス語、中國語、ロシア語のうち一）につきそれぞれ八單位以上、合計十六單位以上

基礎科目 第一外國語として選擇した外國語につき更に四單位以上

體育科目 體育講義、體育實技それぞれ二單位以上、合計四單位以上

2 外國語もしくは基礎科目につき一科目に限り二單位以内、體育科目につき二單位以内不足する者は、前項の規

定にかかわらず、後期二年における専門科目を履修することができる。但し、不足単位を後期二年の初年度中に修得しないときは、次年度において専門科目を履修することができない。

第八條 専門科目は、各専攻に屬する講義、研究及び演習とする。

2 前項の科目の外、必要に應じて特定の科目を授業する。

3 専門科目の配當は、専攻ごとに別に定める。

第四 試 験

第九條 試験は、科目試験及び論文試験とする。

2 論文試験は所定の科目試験に合格した者に對して行う。但し、論題は、専攻の範圍内に限る。

第十條 前條の論文は、教授會の指定した教官が審査する。

第十一條 試験實施の期日その他については、豫め告示する。

第十二條 四年以上在學し、第七條第一項に定める單位及び専門科目八十四單位以上（論文を含む）を修得した者は、通則第二十一條に定める學士試験合格者とする。

2 一般教育科目、外國語、基礎科目及び體育科目の試験については、教養部の定めるところによる。

第五 在 學

第十三條 在學は、七年を超えることができない。

第六 轉學及び轉科

第十四條 他の大學學生又は本學他學部學生で、本學部に轉學を志望する者、もしくは本學部學生で轉科を志望する者があるときは、選考の上、教授會の議を経て許可することがある。

第七 聽 講 生

第十五條 特定の科目につき聴講を志望する者があるときは、教授會の選考を経て、聴講生として入學を許可することがある。

2 聴講生の取扱その他については、別に定める。

附 則

この規程は、昭和二十四年六月一日から施行する。

2 明治三十九年八月十六日制定の文學部規程は、廢止する。

3 舊規程による入學者については、別段の定めをなさない限り、なお舊規程を適用する。

附 則

この改正は、昭和二十五年九月二十六日から適用する。

附 則

この規程は、昭和二十六年四月一日以降の入學者から適用する。

附 則

この規程は、昭和二十九年四月一日から施行する。

附 則

この改正は、昭和三十年四月一日から施行する。

昭和三十年三月三十一日以前の入學者については、なお従前の規程による。

京都大學大學院文學研究科規程

(昭和二十八年四月七日制定)

第一 專 攻

第一條 修士、博士の兩課程に、次の專攻を置く。

- 哲 學
- 宗 教 學
- 心 理 學
- 社 會 學
- 美 學
- 國 史 學
- 東 洋 史 學
- 西 洋 史 學
- 地 理 學
- 考 古 學
- 國 語 學 國 文 學
- 中 國 語 學 中 國 文 學
- 梵 語 學 梵 文 學
- フ ン ス 語 學 フ ラ ン ス 文 學

英語學 英米文學

ドイツ語學 ドイツ文學

言語學

第二 入學

第二條 入學手續及び入學者選抜方法は、文學部教授會で定める。

第三條 入學者の決定は、文學部教授會で行う。

第三 轉科

第四條 通則第三十四條により本研究科に轉科を志望する者は、文學部教授會の議を経て許可することがある。

第四 科目及び學修方法

第五條 各専攻に屬する科目は、次の通りとする。

哲學

哲學、倫理學、支那哲學史、印度哲學史、西洋古代哲學史、西洋中世哲學史、西洋近世哲學史

宗教學

宗教學、佛教學、基督教學、宗教史、佛教史

心理學

實驗心理學、實驗比較心理學、社會心理學

社會學

社會學原論、文化社會學、民俗學

美學

美學美術史、東洋美術、西洋美術

國 史 學

國史學（古代）、國史學（中世）、國史學（近世）

東洋史學

東洋史學（古代）、東洋史學（中世）、東洋史學（近世）

西洋史學

史學理論、西洋史學（古代）、西洋史學（中世）、西洋史學（近世）、

地 理 學

人文地理學、歷史地理學、地誌學

考 古 學

考古學（日本）、考古學（東洋）、人類學

國語學國文學

國語學、國文學

中國語學中國文學

中國語學、中國文學

梵語學梵文學

梵語學、梵文學

フランス語學フランス文學

フランス語學、フランス文學

英語學英米文學

英語學、英米文學

ドイツ語學ドイツ文學

ドイツ語學、ドイツ文學

言語學

言語學、西洋古典語學西洋古典文學、イタリア語學イタリア文學、梵語學、フランス語學、英語學、

ドイツ語學

第六條 前條の科目の外、必要に應じ、特定の科目を授業することがある。

第七條 科目の單位數は、研究科會議で定める。

第八條 科目の配當及び授業時間數は、每學年の始めに定める。

第九條 各學生につき、指導教授を定める。

2 學生は、學修につき、指導教授の指導を受けなければならない。

第十條 通則第三十七條により他の研究科の科目の學修を志望する者は、指導教授の許可を得て、每學年の始めに願ひ出でなければならない。

第十一條 修士課程に必要な三十單位の中、各専攻に屬する科目十六單位は、必修とし、爾餘の單位は、指導教授の許可を得て、自由選擇とすることができる。

2 博士課程に必要な二十單位の中、各専攻に屬する科目十二單位は、必修とし、爾餘の單位は、指導教授の許可を得て、自由選擇とすることができる。

第五 試驗

第十二條 試験は、毎學年の終りに行う。但し、特別の事情があるときは、その時期を變更することができる。

第十三條 試験を受けようとする者は、受験科目を届け出でなければならぬ。

2 前項の届出期日は、豫め告知する。

第六 論文審査

第十四條 研究論文は、研究科會議で定めた教官の調査及び口頭試問の結果にもとづいて、研究科會議で審査する。

第十五條 通則第四十條第四項により學位を得ようとする者は、研究論文を提出し、且つ、専攻學術に關し、大學院の博士課程を終えた者と同等以上の學識を有することを確認されなければならない。

第十六條 前條の専攻學術に關する學識の確認は、筆答試問及び口頭試問により行う。但し、研究科會議の議を経て、他の方法によることができる。

2 提出論文の審査は、大學院の博士課程における論文審査と同一の手續による。

第七 外國學生、委託生、聽講生

第十七條 外國學生、委託生及び聽講生として入學を希望する者には、文學部教授會の議を経て、許可することができる。

附 則

この規程は、昭和二十八年四月一日から施行する。

文學部陳列館内規

(昭和三十年四月二十一日制定)
(昭和三十年七月七日改正)

第一條 この内規は、京都大學文學部附屬陳列館(以下「陳列館」という)が、昭和三十年二月十日、博物館法

(昭和二十六年法律第二百八十五號)附則第四項及び第六項の規定に基き博物館に相當する施設として指定されたについて、同館の運営に關する必要な事項を規定するものである。

第二條 陳列館に主事一名を置く。

- 2 主事は陳列館に關係の深い教授のうちから、教授會の議を経て學部長が委嘱する。
- 3 主事の任期は二カ年とする。但し再任を妨げない。

4 主事は陳列館の行ふ事業を管理し、建築物の防災、秩序維持のため指示を與える。

第三條 陳列館に運営委員七名を置く。

- 2 運営委員は陳列館に關係の深い教授または助教のうちから、教授會の議を経て學部長が委嘱する。
- 3 運営委員の任期は二カ年とする。但し再任を妨げない。

4 運営委員は陳列館全般の運営につき主事に協力し、資料の保管についてその責に當る。

第四條 陳列館に研究員若干名を置く。

- 2 研究員は博物館法に規定された學藝員の職務をも兼ね行ふ。
- 3 研究員は當分の間文學部教授・助教・講師(常勤のものに限る)のうちから、教授會の議を経て、學部長が委嘱する。

第五條 陳列館に事務員若干名を置く。

- 2 事務員は文學部助手のうちから、主事・運営委員と協議して學部長が委嘱する。
- 3 事務員は主事・運営委員及び研究員の指揮を受け、その職務を助ける。
- 4 事務員のうち一名を主任事務員とする。

主任事務員は、主事と協議して學部長が委嘱する。

第六條 當分の間陳列館の常時公開は行わない。

2 陳列館收集資料の觀覽・調査・研究・撮影・模寫・模造・貸與等につき、希望の時日・物件・目的などを記して申出た者に對しては文學部長は主事と協議して許否を決定する。許可をするとき主事はあらかじめ關係運營委員に連絡し、その同意を得なければならぬ。

3 外部からの物件の寄託の申出があつた時は、前項の規定に准じて諾否を決定する。

講座表

講座名	講座内容	開設年月日
哲學史 第一講座	哲學	明治三九・六・四
第二講座	印度哲學史	明治三九・六・四
第三講座	支那哲學史	明治四二・五・二四
第四講座	西洋哲學史(近代)	明治四五・五・二九
第五講座	同 (古代)	昭和 二・一〇・七
第六講座	同 (中世)	昭和 二・二一・七 <small>(平木產業株式會社寄附金)</small>
心理學 講座		明治三九・六・四
倫理學 講座		明治四二・五・二四
美術史 第一講座		昭和三一・四・一
第二講座		明治四〇・五・九
宗教學 第一講座	宗教學	大正一一・五・三一
第二講座	基督教學	大正一五・六・一九
第三講座	佛敎學	明治四〇・五・九
社會學 講座		

國	史	學	第一講座	古	代・中	世	明治四〇・五・九												
同	東	洋	史	學	第一講座	近	古	代	世	明治四二・五・二四									
同	東	洋	史	學	第二講座	古	代	世	明治四〇・五・九										
同	東	洋	史	學	第一講座	中	世	明治四一・五・一											
同	東	洋	史	學	第二講座	中	世	明治四一・五・一											
同	東	洋	史	學	第三講座	近	世	・北	方	史	明治四二・五・二四								
史	學	地	理	學	第一講座	西	洋	史	學	(古	代)	明治四〇・五・九							
同	史	學	地	理	學	第二講座	西	洋	史	學	(古	代)	明治四二・五・二四						
同	史	學	地	理	學	第三講座	同	(中	世	・近	代)	明治四二・五・二四							
考	古	學	講	座	第二講座	人	文	地	理	學	明治四〇・五・九								
同	考	古	學	講	座	人	文	地	理	學	大正	五・九・八							
國	語	學	國	文	學	第一講座	國	文	學	明治四一・五・一									
同	國	語	學	國	文	學	國	語	學	大正	八・六・三〇								
中	國	語	學	中	國	文	學	中	國	文	學	明治三九・六・四							
同	中	國	語	學	中	國	文	學	中	國	語	學	大正	八・六・三〇					
西	洋	文	學	第一講座	ド	イ	ツ	語	學	ド	イ	ツ	文	學	明治四〇・五・九				
同	西	洋	文	學	第二講座	ド	イ	ツ	語	學	ド	イ	ツ	文	學	明治四一・五・一			
同	西	洋	文	學	第三講座	英	語	學	英	語	學	英	語	學	第一	明治四一・五・一			
同	西	洋	文	學	第四講座	同	第二	明治四一・五・一											
同	西	洋	文	學	第三講座	フ	ラ	ン	ス	語	學	フ	ラ	ン	ス	文	學	大正	一四・五・一八

言語學講座

梵語學 梵文學講座

イタリヤ語學 イタリヤ文學講座

西洋古典語學 西洋古典文學講座

明治四一・五・一

明治四一・五・一

昭和一五・一二・一〇

昭和二八・八・一
(原田積善會寄附金)

出版物目録

明治四四・一〇	文科大學叢書 第一卷	大唐西域記	(和装)	一部	五册
大正 三・三	同 第二卷	覆元藁古今雜劇三十種	(洋装)	一部	二册
大正 一四・七五	同 第三卷	梵藏和漢四譯對校翻譯名義大集		一部	二册
大正 九・二六	同 第四卷	滿濟准后日記		一部	三册
大正 一〇・三	同 第五卷	源氏物語桐つぼ槿はしら		一帙	二册
大正 一〇・三	同 第六卷	三國遺事		一部	五册
大正 一一・六	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第一集			一部	四册
昭和 一〇・五	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第二集			一部	三册
昭和 一〇・一一	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第三集(文選集注)			一部	五册
昭和 一一・一	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第四集(文選集注)			一部	三册
昭和 一一・三	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第五集(文選集注)			一部	四册
昭和 一一・三	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第六集(文選集注)			一部	五册
昭和 一一・八	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第七集(文選集注)			一部	四册
昭和 一一・八	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第八集(文選集注)			一部	三册

昭和一七・六 京都帝國大學文學部景印舊鈔本第九集(文選集注) 一部 三册
 昭和一七・六 京都帝國大學文學部景印舊鈔本第十集(文選集注) 一部 二册

昭和 八・三 京都帝國大學國史研究室藏史料集 一部 一册

昭和 一〇・二一 尼崎本萬葉集卷第十六複製本 一部 二册

昭和 一〇・二一 舊鈔本史記孝景本紀第十一複製本 一部 一册

大正 六・三 文科大學考古學研究報告第一册 肥後に於ける裝飾ある古墳及横穴 濱梅田耕末治作

大正 七・七 同 第二册 河内國府石器時代遺跡發掘報告 濱梅田耕末治作
 河内國南安及び喜志石器時代遺跡調査

河内國府肥後轟等にて發掘せる人骨に就て報じ併せて石器時代の住民に及ぶ 鈴木文太郎

大正 八・一〇 同 第三册 九州に於ける裝飾ある古墳 濱梅田耕末治作
 附錄 彌生式土器形式分類圖錄

大正 九・九 同 第四册 河内國府石器時代遺跡第二回發掘報告 濱田耕作
 河内國府石器時代人骨調査 長谷部言人

大正 九・一〇 同 第五册 備中國淺口郡大嶋村津雲貝塚發掘報告 濱清田野貞次
 肥後國宇土郡轟村宮莊貝塚發掘報告 濱神原政職

大正一〇・一一 同

第六册 薩摩國出水郡出水町尾崎貝塚調査報告

濱田耕人
長谷部言彦
島田貞彦

大正一二・六 同

第七册 薩摩國揖宿郡指宿村土器包含層調査報告

新村出

京都及其附近發見の切支丹墓碑

新村出

切支丹教名合字鞍及南蠻人繪鞍に就て
附錄 日本發見銅鏃銅劍及銅鉞表

濱田耕治

大正一二・一一 同

第八册 近江國高島郡水尾村鴨の古墳
附錄 日本發見金製耳飾刀劍環頭及鹿角製刀劍裝具集成表

濱田耕治

大正一四・八 同

第九册 豐後磨崖石佛研究

濱田耕治

昭和二・三 同

第十册 出雲上代玉作遺跡の研究
附表 日本及朝鮮發見勾玉類比重測定表
附錄 日本發見磨製石鏃及石劍聚成

濱田耕治
島田貞彦
梅原末治

昭和五・八 同

第十一册 筑前須玖史前遺跡の研究
附錄 青柳種信著筑前國怡土郡三雲村古器圖說

島田貞彦
梅原末治

昭和八・三 同

第十二册 讚岐高松石清尾山石塚の研究

梅原末治

昭和九・九 同

第十三册 新羅古瓦の研究

濱田耕治

昭和一二・一〇 同

第十四册 大和島庄石舞臺の巨石古墳

附錄 石舞臺古墳の巨石運搬並に其の築造法
附錄 日本古墳巨大石室聚成日本方形古墳聚成

高橋逸天
梅原末治

- 昭和一五・三 同 第十五册 筑前國嘉穗郡王塚裝飾古墳
昭和一八・三 同 第十六册 大和唐古彌生式遺跡の研究
大正一・一・二 初版
昭和五・三・三 再版
京都帝國大學文學部考古圖錄
昭和一〇・三 京都帝國大學文學部考古圖錄續編 一部 一册
昭和一二・三 京都帝國大學陳列館考古圖錄新輯 一部 一册
昭和一八・三 考古學資料叢刊 第一册 漢三國六朝紀年鏡 梅原末治
昭和一九・三 同 第二册 支那漢代紀年銘漆器圖說 梅原末治
昭和二三・一〇 同 第三册 唐鏡大觀 梅原末治
昭和三〇・七 同 第四册 支那古玉圖錄 梅原末治
昭和二八・九 考古學叢書 第一册 法隆寺建築絲觀 淺野清
昭和一二・三 京都帝國大學文學部地理學研究報告 第一册
昭和二三・三 京都帝國大學文學部地理學研究報告 第二册
昭和二七・三 慶陵 圖版册
昭和二八・三 慶陵 本文册
昭和二九・三 明代滿蒙史料明實錄抄 第一卷 (蒙古篇一)

梅原末治
藤岡謙二郎
小林立
永雅雄
林行雄

- 昭和三〇・一 明代滿蒙史料明實錄抄 第二卷 (蒙古篇二)
- 昭和二九・三 明代滿蒙史料明實錄抄 第三卷 (滿洲篇一)
- 昭和三〇・二 明代滿蒙史料明實錄抄 第四卷 (滿洲篇二)
- 昭和三〇・三 明代滿蒙史料明實錄抄 第五卷 (蒙古篇三)
- 昭和三一・一 明代滿蒙史料明實錄抄 第六卷 (滿洲篇三)
- 昭和三一・三 明代滿蒙史料明實錄抄 第七卷 (蒙古篇四)
- 昭和三一・三 明代滿蒙史料明實錄抄 第八卷 (滿洲篇四)

昭和一〇・一一 京都帝國大學文學部三十周年史

昭和一六・四 紀元二千六百年記念史學論文集

昭和二七・三 文學部研究紀要 第一 唐天寶時代の河西道邊防軍に關する經濟史料 那波利貞

昭和二八・三 文學部研究紀要 第二 學童の生活時間に關する調査 Detantou (ていたう) 園原太郎他教室員

昭和二九・三 文學部研究紀要 第三 華夷譯語八百館雜字並に來文の研究 山内得立
 生野銀山史の研究 小葉田
 性格自己診斷検査の作製 矢田部達郎

一部 一册

一部 一册

現 職 員

名譽教授

東洋史學	大正元・九・二六助教授 大正九・二・六教授 昭和七・五・三一退職 昭和七・七・一名譽教授	文學博士	矢野仁一
言語學	明治四〇・二・二五助教授 明治四二・五・一七教授 昭和一・二・〇・一九退職 昭和 二・一・六名譽教授	文學博士	新村出
支那語學	明治四一・二・二五助教授 大正八・七・三一教授 昭和一・三・一退職 昭和一・三・五・四名譽教授	文學博士	鈴木虎雄
支那文學	明治四一・一・〇・三〇講師 明治四四・九・一助教授 大正六・九・二八教授 昭和一七・五・二〇退職 昭和一七・八・一三名譽教授	文學博士	野上俊夫
心理學	大正一・一・八・一一助教授 昭和六・三・三一教授 昭和一・一・二・二四退職 昭和一七・一・〇・二八名譽教授	文學博士	小島祐馬
支那哲學史	大正八・八・一八助教授 昭和二・一・一・四教授 昭和二・〇・三・七退職 昭和二・三・一・三名譽教授	文學博士	田邊元
哲學	明治四一・九・一〇講師 大正八・八・三〇助教授(兼) 大正九・四・三〇助教授 昭和五・一・〇・三〇教授 昭和二・〇・四・二六退職 昭和二・三・一・三名譽教授	文學博士	成瀨清
獨逸文學	大正八・七・二六講師 大正一・一・二・二四助教授 昭和二・一・一・二六轉任 昭和二・七・四講師 昭和四・四・一五助教授 昭和七・五・五教授 昭和二・一・七・一三退職 昭和二・一・八・三一講師 昭和二・一・三・三一解囑 昭和二・一・六名譽教授	文學博士	植田壽藏
美學美術史	大正九・七・二〇講師 大正九・一・一・八助教授 昭和六・三・三一教授 昭和二・一・三・三〇退職 昭和二・二・二・二七名譽教授	文學博士	田中秀央
西洋古典文學	大正一・五・八・一九助教授 昭和六・三・三一教授 昭和一・一・六退職 昭和二・三・九・二二名譽教授	文學博士	天野貞祐
倫理學		文學博士	

現 職 員

佛蘭西文學

大正一〇・一〇・二八助教 昭和八・三・三一教授 昭和二四・五・二〇退職 昭和二五・九・二六名譽教授

文學博士 太宰施門

英文學

大正一二・一・三〇講師 大正一三・一・二七助教 昭和九・七・四教授 昭和二六・四・二六名譽教授 昭和二六・三・三一退職

文學博士 石田憲次

國語學

大正一一・八・一一助教 昭和一一・九・七教授 昭和二六・三・三一退職 昭和二七・三・三一講師 昭和二七・三・三一講師解囑 昭和二六・四・二六名譽教授 昭和二七・三・三一講師解囑

文學博士 澤瀉久孝

國史學

大正四・九・二講師 大正八・六・一二助教 大正一三・九・二九教授 昭和二二・七・三二退職 昭和二七・二・九名譽教授

文學博士 西田直二

哲學

昭和四・四・三〇講師 昭和六・四・二教授(兼) 昭和一一・八・一二教授 昭和二八・四・一退職 昭和二八年度講師 昭和二八・六・一五名譽教授

文學博士 山內得立

東洋史學

昭和三四・四・一講師 昭和四・四・一助教 昭和一三・三・三一教授 昭和二八・八・一退職 昭和二八・九・一七名譽教授

文學博士 那波利貞

考古學

昭和四・四・二四講師 昭和八・六・六助教 昭和一四・七・三一教授 昭和三一・八・一三退職 昭和三一・八・一三名譽教授

文學博士 梅原末治

學 部 長

昭和三一・八・一一就任

教 授 吉川幸次郎

教 授

史學地理學

昭和五・七・五助教 昭和八・五・一一教授

文學博士 原隨園

東洋史學

昭和六・三・三一講師 昭和九・一・二〇助教 昭和一九・五・二三教授

文學博士 宮崎市定

心理學講座

昭和一九・七・八教授

文學博士 矢田部達郎

社會學講座	昭和三・四・四講師 一三教授	昭和七・七・一一助教授	昭和一九・九・	文學博士	白井二尚
倫理學講座	昭和一一・三・三一講師 一・三・八教授	昭和一六・三・三一助教授	昭和二	文學博士	島芳六
美學美術史講座	昭和一二・三・三一講師 二・四・一一教授	昭和一八・五・一四助教授	昭和二	文學博士	井島勉
言語學講座	昭和六・三・三一講師 二・四・三〇教授	昭和一一・一・一〇一五助教授	昭和二	文學博士	泉井久之助
東洋史學	昭和一二・三・三一講師 五・三一教授	昭和一五・六・五助教授	昭和二三・	文學博士	田村實造
第三講座	昭和六一・一二講師	昭和一八年度講師	昭和二二・六・六教授	文學博士	吉川幸次郎
中國語學中國文學第一講座	昭和一一〇年度・一二年度・一二年度・一四年度以降講師 一八・五・一四助教授	昭和二三・六・一七教授	昭和	文學博士	井上智勇
史學地理學	昭和一二・五・三一講師	昭和二三・一・一〇一五教授		文學博士	有賀鐵太郎
第二講座	昭和九・三・三一講師 二・二八教授	昭和一三・三・三一助教授	昭和二四・	文學博士	中西信太郎
西洋文學	昭和一一〇・三・三一講師 四・四・一一教授	昭和一四・三・三一助教授	昭和二	文學博士	遠藤嘉基
國語學國文學	昭和二三年度講師	昭和二四・一・一三〇教授		文學博士	小葉田淳
第一講座	昭和二三・七・一〇助教授	昭和二五・二・一五教授		文學博士	田中美知太郎
哲學哲學史	昭和二三・一・一・三〇助教授	昭和二五・二・一五教授		文學博士	高田三郎
第五講座	昭和五・三・三一講師 三・三一教授	昭和一七・三・三一助教授	昭和二五・	文學博士	足利惇氏
第六講座					
梵語學					
梵文學講座					

西洋文學

第一講座 昭和一五・三・三一 講師 昭和二一・二・一五 助教授 昭和二五・三・三一 教授

大山定一

哲學哲學史

第三講座 昭和一四年度・一六年度 講師 昭和一七・三・三一 助教授 昭和二五・四・五 教授

重澤俊郎

西洋文學

第三講座 昭和九年度以降 講師 昭和二四年度 授業擔當 昭和二五・四・二〇 教授

伊吹武彥

中國語學中國文學

第二講座 昭和二三年度以降 講師 昭和二五・七・三一 教授 昭和二一・二・二八 講師 昭和二二・三・一四 助教授 昭和二五・二・一・九 教授

小川環樹

史學地理學

第二講座 昭和二三年度・二四年度・一八年度・二一年度以降 講師 昭和二六・二・二六 教授 昭和二四年度 授業擔當 昭和二五・二・二八 助教授 昭和二六・三・一六 教授

織田武雄

宗教學

第三講座 昭和二三年度・二四年度・一八年度・二一年度以降 講師 昭和二六・二・二六 教授 昭和二四年度 授業擔當 昭和二五・二・二八 助教授 昭和二六・三・一六 教授

長尾雅人

國語學國文學

第一講座 昭和一二年度・一五年度 講師 昭和二四・五・二〇 助教授 昭和一二・二・一六 教授 昭和一一・〇・三・三一 助教授 昭和一八・七・二八 教授 昭和一二・二・二六 休職 昭和一二・七・三〇 退職 昭和二七・二・一 教授

野間光辰

宗教學

第一講座 昭和一二年度・一五年度 講師 昭和二四・五・二〇 助教授 昭和一二・二・一六 教授 昭和一一・〇・三・三一 助教授 昭和一八・七・二八 教授 昭和一二・二・二六 休職 昭和一二・七・三〇 退職 昭和二七・二・一 教授

西谷啓治

哲學哲學史

第四講座 昭和一二・三・三一 講師 昭和一二・七・九・三〇 解囑 昭和一二・五・三一 助教授 昭和二八・七・一 教授

野田又夫

哲學哲學史

第二講座 昭和一一・八・九・三〇 講師 昭和二三・五・二八 助教授 昭和一二・八・七・一六 教授

松尾義海

國史學

第二講座 昭和一九年度・二〇年度・二一年度・二四年度以降 講師 昭和二六・八・一六 助教授 昭和二八・一〇・二 教授 昭和二六・八・一六 助教授 昭和二八・一〇・二 教授

赤松俊秀

心理學

昭和一一・三・三一 講師 昭和二〇・一・一二 助教授 昭和一二・八・一〇・一 教授

園原太郎

哲學哲學史

第一講座 昭和二三・三・三一 講師 昭和二九・四・一 教授

文學博士 三宅剛一

イタリヤ語學
イタリヤ文學
講座

昭和二一・三・三一 講師
九・二〇・一 教授

昭和二二・五・二〇 助教授

昭和二

野上素一

助 教 授

西洋古典語學
西洋古典文學

昭和一六・三・三一 講師

昭和二二・四・三〇 助教授

松平千秋

宗 教 學

昭和一七年度講師
三一助教授

昭和二一・三・三一 講師

昭和二三・八・

武内義範

東 洋 史 學

昭和二四・五・一〇 助教授

佐伯 富

英 文 學

昭和二六・六・一 助教授

御 興 員 三

西 洋 史 學

昭和一四年度以降講師
二七・四・一 助教授

昭和二四年度以降授業擔當

昭和

前 川 貞 次 郎

考 古 學

昭和二五・三・三一 專任講師

昭和二七・二・二一 助教授

文學博士

有 光 教 一

英 文 學

昭和二六年度授業擔當

昭和二八・五・一 助教授

菅 泰 男

東 洋 史 學

昭和二五・六・三〇 講師

昭和二九・七・一六 助教授

佐 藤 長

社 會 學

昭和二九・九・一 助教授

池 田 義 祐

心 理 學

昭和二八年度以降授業擔當

昭和三〇・七・一 助教授

柿 崎 祐 一

國 語 學

昭和二六年度講師
一助教授

昭和二八年度以降講師

昭和三一・五・

濱 田 敦

講 師

梵文	昭和一六・三・三一講師	昭和二四・六・一專任講師	文學博士	伊藤義教
梵文	昭和一七・九・三〇講師	昭和二一・三・三一解囑	善波	周
ドイツ語	六・三〇講師	昭和二四・八・一專任講師	三浦アノナ	
ドイツ語	昭和七・三・三一講師	昭和二四・六・一專任講師	本吉良治	
ドイツ語	八・三一教養部勤務	昭和二五・五・三一教養部より轉	小林行雄	
心 理 學	昭和二七・七・一專任講師		越智武臣	
考 古 學	昭和二三年度・二四年度授業擔當	昭和二八・四・一六專任講		
西 洋 史 學	昭和三一・四・一專任講師			

授 業 擔 當

國 語 學	昭和一五・一・九・九、二〇―二三(講師)	昭和二四―三一	教養部教授	池上禎造
東 洋 史 學	昭和二二―二三(講師)	昭和二四―三一	教養部教授	羽田 明
ド イ ツ 語 學	昭和二二―二三(講師)	昭和二四―三一	教養部教授	古松 貞一
社 會 學	昭和二三(講師)	昭和二四―三一	教養部教授	姫岡 勤
フ ラ ン ス 語 學	昭和二四―三一		教養部教授	生島 遼一
フ ラ ン ス 文 學	昭和二二―二三(講師)	昭和二四―三一	教養部教授	藤岡謙二郎
人 文 地 理 學	昭和一一―一二・八(講師)	昭和二五―三一	教養部教授	柴田 實
國 史 學	昭和二五・一〇―三一		教養部教授	佐藤 幸治
心 理 學	昭和六(講師)	昭和二六―三一	教養部教授	中原與茂九郎
西 洋 史 學				

英語學	昭和二六―三二	教養部教授	小林象二
美學美術史	昭和一八・二〇―二四・五(講師) 昭和二四・六―二五(專講)	教養部教授	上野照夫
社會學	昭和二五(講師) 昭和二六―三一	教養部教授	江藤則義
英語學	昭和二五・二〇 昭和二七―三一	教養部教授	村上至孝
英語學	昭和二七―三一	教養部教授	池田義一郎
英語學	昭和七―九(講師) 昭和二六―二八 昭和三〇―三一	教養部教授	山本修二
英語學	昭和二五・二〇―二八 昭和三〇―三一	教養部教授	宮西光雄
フランス語學	昭和二六―三一	教養部教授	田中俊一
西洋哲學史	昭和二四 昭和三一	教養部教授	田村松平
ドイツ語學	昭和三一	教養部教授	若林光夫
佛敎學	昭和一五―一六(講師) 昭和二五―三一	人文科學研究所教授	塚本善隆
フランス語學	昭和六一―一六(講師) 昭和二五―三一	人文科學研究所教授	桑原武夫
考古學	昭和二七―三一	人文科學研究所教授	長廣敏雄
人文地理學	昭和一二(講師) 昭和二八―三一	人文科學研究所教授	森鹿三
東洋史學	昭和一三―一四(講師) 昭和一五、一八、二九―三一	人文科學研究所教授	安部健夫

考 古 學	昭和一二・一九(講師)	昭和三四―二六、三一	人文科學研究所	水野清一
哲 學	昭和一六―二二前	昭和三一	教育學部教授	高坂正顯
ドイツ語學	昭和二四―三一		文學博士	谷友辛
フランス語學	昭和二二―二三(講師)	昭和二四―三一	教養部助教授	本城格
ドイツ語學	昭和二四―三一		教養部助教授	高安國世
フランス語學	昭和一一・一二・一四、五(講師)	昭和二四・六―二四・八(專講)	教養部助教授	林憲一郎
フランス文學	昭和二四・九―三一		教養部助教授	保田清
倫 理 學	昭和二四―二五・五(講師)	昭和二五・五―二六・四(專講)	教養部助教授	武藤一雄
宗 教 學	昭和二四―三一		教養部助教授	渡邊明正
フランス語學	昭和二五・一〇―三一		教養部助教授	後藤敏雄
フランス文學	昭和二六―三一		教養部助教授	阪倉篤義
國 語 學	昭和二五・一〇	昭和二七―三一	教養部助教授	西村睦男
人文地理學	昭和二八―三一		教養部助教授	鹽谷 甕
ドイツ語學	昭和二七・五―三〇・四(專講)	昭和三〇―三一	教養部助教授	豐田 堯
ドイツ文學	昭和三四―二五、昭和二七―二九、昭和三一		教養部助教授	石川敬二
西洋史學	昭和八・九―二三(講師)	昭和三一	教養部助教授	
ドイツ語學				
ドイツ文學				

ドイツ語學	昭和二六、昭和三一	教養部助教授	田川基三
英文語學	昭和二七、昭和三一	教養部助教授	川田周雄
英文語學	昭和三一	教養部助教授	森清
美學美術史	昭和三一	教養部助教授	梶野
國史學	昭和三一	教養部助教授	岸俊男
ロシア語	昭和二五―三一	教養部助教授	植野修司
中國語學	昭和二五・六―二六・四(專講)	人文科學研究所 助教授	田中謙二
中國文學	昭和二六―三一	人文科學研究所 助教授	島田虔次
東洋史學	昭和三一	教育學部助教授	渡邊洋二
社會學	昭和二七―三一	人文科學研究所 講師	日比野丈夫
人文地理學	昭和二九―三一	人文科學研究所 助教授	多田道太郎
フランス語	昭和三一	人文科學研究所 助教授	藤吉慈海
佛敎學	昭和二四、昭和三一	人文科學研究所 助教授	

講師 (非常勤)

スペイン語	昭和一七―三一	大阪外國語大學 助教授	國澤慶一
印度哲學史	昭和一八、昭和二三―三一	大阪大學 文學博士	佐保田鶴治

現職員

アラビア語	昭和二三―三一	關西大學講師	藤本勝次
宗教學	昭和三五―三一	龍谷大學教授	棚瀬襄爾
佛書講讀	昭和三五・一〇―三一		樋口隆康
心理學	昭和二六―三一	關西學院大學教授	今田惠
國史學	昭和六、一、一三、一五、一七後 昭和二六―三一 昭和二六・九―三一	同志社大學教授 同文學博士	三品彰英
イタリヤ文學	昭和二六・九―三一	大阪外國語大學講師	宮本幸三郎
西洋古典語學	昭和二七―三一	神戸商科大學助教	鈴木照雄
西洋古典文學	昭和二七―三一	立命館大學教授	林屋辰三郎
ギリシア學	昭和二七―三一	大阪外國語大學教授	澤英三
國史	昭和二七―三一	大阪市立大學講師	山田品
梵語學梵文學	昭和二七―三一	大阪市立大學教授	玉上琢彌
言語學	昭和二八―三一	京都國立博物館館長文學博士	神田喜一郎
西洋古典語學	昭和二八―三一	神戸大學教授	山本忠雄
ラテン語	昭和二八―三一	神戸大學助教授	小川政恭
國文學	昭和二八―三一	大阪市立大學教授	小島憲之
中國文學	昭和二八―三一		
英語學	昭和二八―三一		
西洋古典語學	昭和二九―三一		
西洋古典文學	昭和二九―三一		
國語學	昭和二六、昭和二九―三一		

西洋古典語學	昭和二九—三一
西洋古典文學	
ラテン語	
哲學	昭和二七—二八、昭和三〇—三一
支那哲學史	昭和三〇—三一
支那哲學史	昭和三〇—三一
西洋哲學史	昭和一四—一六、昭和一八、昭和三〇—三一
倫理學	昭和二六—二七、昭和三〇—三一
基督教學	昭和一二—一七、昭和三〇—三一
中國語學	昭和三〇—三一
中國文學	
西洋古典語學	昭和三〇—三一
西洋古典文學	
イタリヤ語學	昭和三〇—三一
イタリヤ文學	
梵語學梵文學	昭和三〇—三一
言語學	
西洋哲學史	昭和二三・九、昭和二九—三一
英語學	昭和二三—二六、昭和二八—三一
英語學	
フランス語學	昭和二八—三一
フランス文學	
英語學	昭和二七—三一
英語學	

現職員

西京大學講師	中村善也
大阪市立大學講師	森口美都男
大阪市立大學助教	本田濟
愛知學藝大學講師	福永光司
奈良女子大學教授	服部英次郎
大阪大學助教授	岸畑豐
關西學院大學教授	松村克己
立命館大學助教	高木正一
神戸大學教授	岡田正三
神戸市外國語大學講師	林一郎
	大地原豐

Vincent Pouliot

John Charles Murrett

Jean-Pierre Hauchecorne

Robert H. Grant

イタリヤ語學 昭和二九—三一

Alexander Benicvenni

中國語學 昭和二九—三一

徐 新 元

言語學 昭和三〇—三一

鄭 寅 燮

社會學 昭和三一

Julian H. Stewart

哲學 昭和三〇—三一

Gerhard Knauss

英語學 昭和三〇・二一—三二

神戸大學教授 工 藤 好 美

哲學 昭和一一—一五、昭和一二・九—一九・九、昭和二二・五、昭和二七—二九、昭和三一

大阪大學教授 澤 瀉 久 敏

西洋哲學史 昭和三一

西京大學助教授 藤 澤 令 夫

心理學 昭和三一

關西大學講師 廣 田 君 美

心理學 昭和三一

奈良女子大學 辻 岡 美 延

心理學 昭和三一

京都工藝纖維大學教授 岩 原 信 九 郎

美學美術史 昭和二八—二九、昭和三一

神戸大學講師 河 本 敦 大

社會學 昭和三一

大阪大學助教授 梅 溪 昇

國史學 昭和三一

奈良女子大學 岡 部 健 彦

西洋史學 昭和三一

立命館大學教授 野 間 三 郎

人文地理學 昭和二二・二〇—二九、昭和三一

人文地理學 昭和二一—二二・二、昭和三一

人文地理學	昭和三一
中國語	昭和三一
言語學	昭和三一
ドイツ語	昭和三一
基督教學	昭和三一
美學美術史	昭和二五―二六、昭和二八―三一
美學美術史	昭和三〇―三一
印度哲學史	昭和三〇・二〇―三一
支那哲學史	昭和三一
考古學	昭和三一
中國語學	昭和三一
中國文學	昭和三一
西洋古典語學	昭和二七、昭和三一
西洋古典文學	昭和二七、昭和三一
言語學	昭和二七、昭和三一
東洋史學	昭和三一
國語學	昭和三一
國文學	昭和三一
基督教學	昭和三一
英語學	昭和三一
英文學	昭和三一

現職員

小野三正	廣島大學助教授
清水雄二郎	東京大學助教授
西田龍雄	東京藝術大學教授
大城功	高野山大學教授
神崎大六郎	文藝學博士
吉川逸治	山口大學助教授
新規矩男	東京大學講師
中野義照	廣島大學教授
湯淺幸孫	東京大學助教授
山內清男	廣島大學助教授
斯波六郎	廣島大學助教授
關本至	東北大學教授
曾我部靜雄	文藝學博士
鹽田良平	大正大學教授
淺野順	文藝學博士
	青山學院大學教授

Norman F. Nelson

英 文 學
英 語 學
昭和三一

助 手

Anthony S. Thwaites

東 洋 史 學
昭和二一・六・三〇助手

昭和二四・六・一助手

里 井 彦 七 郎

國 語 學
昭和二三・五・三一副手

昭和二六・七・一助手

横 山 浩

考 古 學
昭和二三・四・三〇副手

昭和二八・四・一六助手

大 橋 保 夫

フ ラ ン ス 語 學
昭和二八・四・一六助手

昭和二八・四・一六助手

中 沼 了

英 文 學
昭和二八・四・一六助手

昭和二八・五・一六助手

池 田 廉

イ タ リ ア 語 學
昭和二八・五・一六助手

昭和二九・二・一助手

井 本 英 一

言 語 學
昭和二九・二・一助手

昭和二九・一〇・一助手

門 脇 禎 二

梵 語 學
昭和二九・一〇・一助手

昭和三〇・四・一六助手

末 尾 至 行

人 文 地 理 學
昭和三〇・四・一六助手

昭和三〇・五・一助手

益 田 庄 二

社 會 學
昭和三〇・五・一助手

昭和三〇・六・一助手

吉 岡 健 二 郎

美 學 美 術 史
昭和三〇・六・一助手

昭和三一・四・二〇助手

酒 井 修

哲 學
昭和三一・四・二〇助手

昭和三一・四・一六助手

木 下 富 雄

心 理 學
昭和三一・四・一六助手

昭和三一・四・一六助手

梶 山 雄 一

佛 教 學
昭和三一・四・一六助手

考 古 學

昭和三一・四・一六助手

西 洋 哲 學 史

昭和三一・四・二〇助手

ド イ ツ 語 學

昭和三一・五・一助手

西 洋 史 學

昭和三一・四・一講師

昭和三一・七・一助手

西 洋 古 典 語 學

昭和三一・七・一六助手

事 務 官

事 務 長

昭和二九・七・一五事務長

昭和一九・一〇・七囑託

昭和二三・四・一技術補佐員

昭和

二四・六・一事務官

昭和三〇・八・一教官

昭和一九・一二・三一雇

昭和一九・九・三〇囑託

昭和二三・

一六教官

昭和二四・六・一事務官

昭和二九・八・

昭和一九・一二・五雇

昭和二三・四・三〇囑託

昭和二三・

四・事務補佐員

昭和二四・六・一事務官

昭和二三・

昭和二〇・七・三一助手

昭和二一・一・三一書記(兼)

昭和

二一・四・一事務官(兼)

昭和二四・六・一事務官

昭和

昭和二二・六・三〇囑託

昭和二三・二・一〇教官

昭和二

三五・一・五事務官(兼)

昭和二九・八・一六事務官

昭和二

昭和二三・六・三〇雇

昭和二三・九・八囑託

昭和二三・四

二事務補佐員

昭和二四・四・三〇事務官

昭和二三・四

昭和二三・九・三〇囑託

昭和二三・四・一事務補佐員

昭和

二四・六・一事務官

昭和二三・四・一事務補佐員

昭和

昭和一九・四・六・二四雇

昭和一九・五・五・三一書記

昭和二二・

四・事務官

昭和二二・一・一五文學部

昭和一九・一一・

五休職

昭和三〇・五・五復職

昭和二九・一一・

教 務 掛 長

現 職 員

昭和三〇・五・五復職

昭和三〇・五・五復職

昭和二九・一一・

加 藤 勇

六 浦 眞 然

戸 田 正 義

谷 口 寛 一 郎

木 村 治 雄

寺 本 玲 子

村 橋 瑠 璃 巽

高 橋 猪 之 介

城 田 榮 一

柳 沼 重 剛

加 藤 一 朗

林 功 三

日 下 昭 夫

西 谷 眞 治

附 錄

會計掛長

昭和二三・二・六履
五・二文學部

昭和二二・四・一事務官

昭和二七・

昭和二三・二・一五履

昭和三〇・一・二六教官

同日文學部

三八〇

松 井 重 治

佐 々 木 邦 彦

舊 職 員

學長・學部長

明治三九・七・五——明治四一・一〇・二一	文學博士	狩野亨吉
明治四一・一〇・二一——大正五・五・二五	文學博士	松本文三郎
大正五・五・二五——大正八・七・二八	文學博士	藤代禎輔
大正八・七・二八——大正一一・四・二六	文學博士	狩野直喜
大正一一・四・二六——大正一三・一・二四（死亡）	文學博士	原勝郎
大正一三・一・二四（事務取扱）——大正一三・一・二四——昭和二・四・五	文學博士	坂口昂
昭和二・四・五——昭和四・四・一	文學博士	小西重直
昭和四・四・一——昭和五・一〇・七	文學博士	藤井健次郎
昭和五・一〇・七——昭和七・一〇・七	文學博士	濱田耕作
昭和七・一〇・七——昭和九・一〇・八	文學博士	羽田亨
昭和九・一〇・八——昭和一一・一〇・八	文學博士	野上俊天
昭和一一・一〇・八——昭和一三・一一・一〇	文學博士	小島祐馬
昭和一三・一一・一〇——昭和一五・一一・一一	文學博士	西田直二郎
昭和一五・一一・一一——昭和一七・一一・一一	文學博士	成瀬清

昭和一七・二一——昭和二一・一三・二〇

昭和二一・一二・二〇——昭和二三・九・二〇

昭和二三・九・二〇——昭和二五・九・九

昭和二五・四・一五——昭和二五・七・八(部長代理)

昭和二五・九・九——昭和二六・九・二〇

昭和二六・九・一〇——昭和二七・八・一一

昭和二七・八・一一——昭和二九・八・一一

昭和二九・八・一一——昭和三一・八・一一

教 授

倫 理 學

明治三九・四・一一開設委員 明治三九・七・五教授 明治四一・〇・二退職 昭和一七・二・二死亡

文學博士 狩野亨吉

教育學教授法

明治三九・四・一一開設委員 明治三九・七・五教授 大正二・八・五退職 昭和二二・二・一死亡

文學博士 谷本富

支那語學
支那文學

明治三九・四・一一開設委員 明治三九・七・五教授 昭和二三・二・九退職 昭和二三・四・六名譽教授 昭和二二・二・一三死亡

文學博士 狩野直喜

印度哲學史

明治三九・四・一一開設委員 明治三九・七・二六教授 昭和四一・五・二五退職 昭和四一・八・一八死亡

文學博士 松本文三郎

西洋哲學史

明治三九・四・一一開設委員 明治三九・七・二八教授 大正三・七・三一轉任 昭和二二・一・一五死亡

文學博士 桑木嚴翼

心理學

明治三九・七・二八教授 大正二・七・二六轉任 昭和一八・一一・二四死亡

文學博士 松本亦太郎

國 史

明治三九・八・三教授(兼) 明治四〇・五・三教授 大正八・七・二二死亡

文學博士 內田銀藏

獨逸文學	明治四〇・八・一三教授 昭和二・四・一八死亡	昭和二・四・一八死亡	文學博士	藤代禎輔
地理學	明治四一・五・二二教授 昭和五・六・一八退職 一・一五死亡	大正一〇・一二・一九理學部に轉 昭和五・八・二五名譽教授	理學博士	小川琢治
西洋史	明治四二・三・二〇教授	大正一三・一・一四死亡	文學博士	原勝郎
東洋史	明治四二・四・九教授 五名譽教授	昭和五・二・二四退職 昭和六・二・二三死亡	文學博士	桑原隲藏
英文學	明治四一・一・六講師 七・一一死亡	明治四二・五・一七教授	文學博士	上田敏
國史	明治四〇・五・一〇國史資料蒐集囑託 明治四二・五・二五教授 二〇名譽教授	明治四〇・八・一二講師 昭和六・七・一五退職 昭和六・七・六死亡	文學博士	三浦周行
東洋史	明治四〇・一・一〇一六講師 五・八・三〇退職 警教授	明治四二・九・一〇教授 昭和二・七・一六死亡 昭和五・二・七講師解囑 昭和九・六・二六死亡	文學博士	內藤虎次郎
梵語文學	明治四〇・一・二五助教授 四・二〇退職	明治四三・五・五教授 昭和七・八・二四死亡	文學博士	榊亮三郎
美學美術史	明治四三・一・一七教授	昭和三・一・一二死亡	文學博士	深田康算
國語文學	明治四二・一・一八講師 一八退職	明治四四・九・一教授 昭和二・〇・五・二三死亡	文學博士	藤井乙男
西洋史	明治四〇・四・五助教授 一・二八死亡	明治四五・一・一七教授	文學博士	坂口昂
西洋哲學史	明治四〇・七・一七助教授 三・二〇退職 八死亡	大正二・一・二三教授 昭和六・二・二六・九・二	文學博士	朝永三十郎
教育學教授法	大正二・八・四教授 三〇退職	昭和八・三・二二總長就任 昭和八・六・二二死亡	文學博士	小西重直
哲學	明治四三・八・三一助教授 九・一九退職	大正二・八・一二教授 昭和二・〇・六・七死亡	文學博士	西田幾多郎

舊職員

倫理學	大正二・八・二三教授 昭和六・一・一八死亡	文學博士 藤井健治郎
支那哲學史	明治四〇・七・一七助教授 大正四・四・七教授 昭和四・一・二退職 昭和四・四・二〇名譽教授 昭和二五・二・九死亡	文學博士 高瀨武次郎
考古學	明治四二・九・三講師 大正二・三・一助教授 大正六・九・二八教授 昭和一二・六・三〇總長就任 昭和一二・七・二五死亡	文學博士 濱田耕作
宗教學	大正六・一二・四教授 昭和一二・七・三二退職 昭和一・一・一名譽教授 昭和二五・一・一七死亡	文學博士 波多野精一
英文學	明治三九・八・二四助教授 明治四一・六・三〇轉任 明治四一・九・一講師 明治四二・七・二五助教授 大正元・九・四轉任 大正元・九・一九助教授(兼) 大正七・七・三教授(兼) 大正一〇・三・三一退職同日講師 昭和六・三・三一講師解囑 昭和二〇・一〇・一〇死亡	文學博士 島文治郎
英文學	大正二・九・五講師 大正六・五・一四助教授 大正八・六・一二教授 大正一二・九・一死亡	文學博士 厨川辰夫
國語學	明治四一・五・一助教授 大正八・七・三一教授 昭和一一・八・三一退職 昭和一一・〇・一五名譽教授 昭和二九・一・五死亡	文學博士 吉澤義則
地理學	明治四〇・一〇・二六助教授(兼) 大正八・九・一教授(兼) 大正一一・八・一六教授 昭和一一・三・三一退職 昭和一一・九・二一名譽教授 昭和二二・四・一九死亡	文學博士 石橋五郎
國史	明治四一・二・二五講師 大正九・七・五教授 大正一三・九・二九退職 大正一四・四・一講師 昭和一四・七・三死亡	文學博士 喜田貞吉
社會學	明治四〇・九・一講師 大正九・七・五教授 大正一四・三・三退職 昭和二〇・一二・一八死亡	文學博士 米田庄太郎
東洋史	明治四二・九・一講師 大正二・四・一八助教授 大正一三・一・二四教授 昭和一一・三・一五總長就任 昭和二〇・一・一退職 昭和二一・三・二九名譽教授 昭和三〇・四・一三死亡	文學博士 羽田亨
朝鮮史	大正二・三・三一講師 大正五・一・二二助教授 大正一五・五・七教授(兼) 昭和七・五・二〇死亡	文學博士 今西龍
倫理學	大正一四・三・一講師 大正一四・七・二八助教授 昭和三・三一教授 昭和九・七・二五轉任	文學博士 和辻哲郎

美學美術史	大正八・八・二八助教授	昭和五・五・二三教授	同日死亡	澤村專太郎
西洋史	大正一四・五・一五助教授(兼)	昭和八・五・一一教授	昭和七・二・二八退職	時野谷常三郎
西洋哲學史	昭和四・四・二講師	昭和八・三・三一助教授	昭和一〇・三・三〇教授	九鬼周造
佛敎學	大正一・二・四・一講師	昭和四・四・二〇助教授	昭和一〇・三・三〇教授	羽溪了諦
印度哲學史	昭和四・四・二講師	昭和九・四・二五助教授	昭和一〇・六・二九教授	本田義英
心理學	大正一・一・四・一〇講師	昭和四・二・六助教授	昭和一二・一一・一教授	岩井勝二郎
言語學	大正一・三・三・三一講師	昭和六・三・三一助教授	昭和一二・一二・一五教授	落合太郎
支那文學	昭和一・三・三・二二教授	昭和二・二・六退職		青木正兒
地理學	大正一・五・四・一〇講師	昭和六・三・三一助教授	昭和一二・三・三一教授	小牧實繁
支那語學	大正一・五・四・一〇講師	昭和二・四・二五助教授	昭和一二・四・二四教授	倉石武四郎
支那文學	昭和八・五・一一助教授	昭和一一・三・三〇教授	昭和一二・二・二死亡	木村素衛
教育學教授法	昭和八年度以降講師	昭和一一・三・三〇助教授	昭和一二・三・八教授	高山岩男
哲學	昭和七年度・一〇年度・一一年度講師	昭和一二・三・三一助教授	昭和一二・三・九教授	久松眞一
佛敎學	昭和三・四・一講師	昭和八・三・三一助教授	昭和一二・三・八退職	文學博士 原退藏
國語學	昭和三・四・一講師	昭和八・三・三一助教授	昭和一二・三・八退職	文學博士 原退藏
國文學	昭和三・四・一講師	昭和八・三・三一助教授	昭和一二・三・八退職	文學博士 原退藏

教育學教授法

教育學教授法

昭和二十一年度以降講師 昭和二十二年六月五助教 昭和二十三年八月三十一教授 昭和二十五年六月二十六教育學部兼任 昭和二十六年四月一〇文學部兼任 昭和二十八年一月三十一兼任解除 昭和二十八年七月一〇文學部兼任 昭和二十五年八月三十一教授(兼) 昭和二十六年三月三十一教育學部に轉 昭和二十七年七月一〇教授(兼) 昭和二十八年七月一〇教授(兼) 昭和二十八年七月一〇教授(兼) 昭和二十八年七月一〇教授(兼)

文學博士 下程勇吉

正木正

教師

英文學

大正五・九・一講師 大正一〇・三・三十一教師 昭和九・三・三十一滿期解囑 昭和九・四・二九死亡 昭和九・三・三十一

Edward Clarke

助教

倫理學

明治四一・二・七助教 大正三・九・一四轉任

友枝高彦

倫理學

大正二・七・一〇講師 大正六・九・二八助教 大正一二年五月五轉任 昭和一七年度一八年度講師 大正一二年

文學博士 千葉胤成

西洋史

大正七・九・五講師 大正一二年二月二八助教 昭和三年一月一〇死亡 大正一一年四月一講師 昭和二年七月一九助教(兼) 昭和三年二月九退職

文學博士 植村清之助

西洋史

大正一四年四月一講師 昭和四年三月三十一助教 大正一三年三月三十一退職同日講師 昭和一九年三月三十一〇死亡

文學博士 中村直勝

西洋史

昭和六年度以降講師 昭和一年三月三十一助教 昭和六年度以內講師 昭和一年一月三十一助教 昭和二年一月三十一轉任

文學博士 原真乘

國史

昭和一年二月三十一講師 昭和一年七月三十一助教 昭和二年一月三十一轉任 昭和二年六月六休職 昭和三年一月三十一九退職 昭和三年一月三十一〇死亡

文學博士 藤直幹

宗敎學

昭和七年一〇・二二助教 昭和七年七月一〇・二二助教 昭和七年七月一〇・二二助教 昭和七年七月一〇・二二助教

鈴木成高

西洋史

昭和七年七月一〇・二二助教 昭和七年七月一〇・二二助教 昭和七年七月一〇・二二助教 昭和七年七月一〇・二二助教

鈴木成高

地理學 昭和二二・二三・三一 講師 昭和二一・二二・二七 助教授 昭和二一・二三・三〇 退職
 國史 昭和一一・一三・三一 講師 昭和二一・八・二六 助教授 昭和二五・四・一 敎養部教授に轉 昭和二五年度以降授業擔當
 東洋史 昭和二三・三三・三一 講師 昭和二二・六・五 助教授 昭和二三・九・二四 轉任 昭和二九年度講師

講師

伊太利語 昭和八・一二・四・五 (講師) 昭和二四・六・一・二四・一一 (專講)
 西洋史 昭和五・一二・六 (講師) 昭和二四・六・一・二四・八 (專講)
 佛蘭西語學 昭和一一・一五・一二・四・五 (講師) 昭和二四・六・一・二四・八 (專講)
 佛蘭西文學 昭和一一・一五・一二・四・五 (講師) 昭和二四・六・一・二四・八 (專講)
 美學美術史 昭和一一・一五・一二・四・五 (講師) 昭和二四・六・一・二四・八 (專講)
 心理學 昭和一九・一一・二四・五 (講師) 昭和二四・六・一・二六 (專講)
 哲學 昭和二七 (講師) 昭和二四・六・一・二五 (專講)
 倫理學 昭和二一・一二・四・五 (講師) 昭和二四・六・一・二五 (專講)
 中國語學 昭和二四・一二・五 (講師) 昭和二五・五・一二・六・四 (專講)
 中國文學 昭和二六・四・三一 (授擔) 昭和二五・五・一二・六・四 (專講)
 ドイツ語學 昭和二五・六・一二・六・四 (專講) 昭和二六・一・三一 (授擔)
 ドイツ文學 昭和二七・五・一三・〇・四 (專講) 昭和三〇・一・三一 (授擔)

授業擔當

室賀信夫
 柴田實
 宇都宮清吉

文學博士 黒田正利
 文學博士 村田數之亮
 林憲一郎
 上野照夫
 八木晃
 大島康正
 保田清
 田中謙二
 鹽谷饒

生理學	明治三九・九—大正二・八	醫學部教授	天谷千松
精神病学	明治四〇・九—昭和九・一二 昭和九・二—一〇・三(講師)	醫學部教授	今村新吉
國法學	明治四〇・九—四一・九 大正元・二—二・七	法科大學教授	佐藤丑次郎
經濟學	明治四〇・九—四三・七	法科大學助教授	財部靜治
國際公法	明治四一・九—大正二・八	法科大學教授	末廣重雄
財政學	明治四一・九—大正元・七	法科大學教授	神戶正雄
教育行政	明治四二・九—大正一二・三	法學部教授	織田萬
人類學	明治四二・九—大正一二・三 大正一四・七—昭和二・三(講師)	醫學部教授	足立文太郎
數學	大正元・九—三・七	理工科大學助教授	和田健雄
經濟學原理	大正二・七—五・一	法科大學教授	小川郷太郎
數學	大正三・九—一〇・三	理學部教授	園正造
生理學	大正三・九—四・六(總長就任)	醫學部教授	荒木寅三郎
生理學	大正三—昭和一三	醫學部教授	石川日出鶴丸
地理學	大正一三、昭和二—一三	理學部教授	中村新太郎
教育行政	大正一四・三—昭和四・三	法學部教授	佐々木惣一
日本建築史	大正一四・三—昭和二・三	工學部教授	天沼俊
人類學	昭和二・三—九九・九 昭和二、一四、昭和一六—一八 (講師)	醫學部助教授	金關丈六

地圖學	昭和三
教育行政	昭和四、六、八、一〇、一三
日本法制史	昭和七、八、一〇、一二、一三、一五
人類學	昭和一〇、一二、一三
精神病學	昭和一一、一三、一七
地理學	昭和一四—三一・九・二一(死亡)
支那哲學史	昭和一四、一七、一八(講師) 昭和一九—二一
倫理學	昭和二一—二二 昭和二六、二九
國史學	昭和二一後—二七
地理學	昭和二一—二二 昭和二六、二九
社會學	昭和一八・二〇—二二・五(講師) 昭和二三、二六—二七
心理學	昭和二三—二三(講師) 昭和三四—二七
法理學	昭和三四
生理學	昭和三四
支那哲學史	昭和一一—一八、昭和二三—二三(講師) 昭和三四—二六
支那語文學	昭和三四—二九
支那文學	昭和三五、二九
哲學	昭和三五、二九
教育學教授法	昭和三五

舊職員

理學部助教授	熊谷直一
法學部教授	渡邊宗太郎
法學部博士	牧健二
醫學部教授	清野謙次
醫學部博士	三浦百重
醫學部教授	野滿隆治
理學部博士	木村英
人文科學研究所	坂田吉雄
人文科學研究所	松下進
理學部教授	重松俊明
人文科學研究所	和田陽平
教養部教授	加藤新平
法學部教授	平澤興
醫學部教授	平岡武夫
醫學部博士	入矢義高
人文科學研究所	上田泰治
教養部助教授	黑丸正四郎
醫學部講師	

支那哲學史	昭和二五・一〇—二六	教養部助教	西田太一郎
英文學	昭和七—九(講師) 昭和二六、二九	教養部教授	深瀬基寬
獨逸語	昭和二六—二七	教養部教授	白井竹次郎
獨逸文學	昭和二六—三〇	教養部教授	吉田次郎
教育學教授法	昭和二六—二八	教育學部教授	鯉坂二夫
心理學	昭和二六、二九、三〇	教育學部助教	末永俊郎
心理學	昭和二六—二八	教養部助教	苧坂良一
英文學	昭和二七、二九	理學部教授	山村武雄
西洋哲學史	昭和二八	理學部博士	小堀 靈
英文學	昭和二八、三〇	教養部助教	中野正順
英文學	昭和二八	教養部助教	飯沼 馨
西洋史學	昭和二六(講師) 昭和二八—二九	人文科學研究所 助教	會田雄次
西洋哲學史	昭和二八・一〇	教養部助教	石田 仁
英語學	昭和二九	教養部助教	山內邦臣
考古學	昭和一七前、昭和二三—二三(講師) 昭和三〇	人文科學研究所 教授	貝塚茂樹
哲學	昭和三〇	教養部助教	辻村公一
英語學	昭和三〇	教養部助教	角倉康夫
東洋史學	昭和三〇	人文科學研究所 教授	小野川秀美

講 師 (非常勤)

哲 佛 蘭 西 語 學	明治三九・二〇—大正一一・二〇(死亡)	Pi�re Aurientis
獨 逸 語 學	明治三九・一〇—大正二・八	Emil Schiller
印 度 哲 學 史	明治三九・一〇—大正七・二一(死亡)	熱 田 靈 知
英 語	明治三九・一〇—大正一五・三	F. A. Lombard
宗 教 學	明治四〇・九—大正三・七	Sidney L. Gullick
宗 教 學	明治四〇・九—大正一一・二(死亡)	蘭 田 宗 惠
美 國 文 學	明治四〇・九—大正三・九	武 田 五 一
東 洋 史	明治四一・九—大正七・二二(死亡)	富 岡 謙 藏
支 那 語	明治四一・九—大正一五・一〇	徐 東 泰
東 洋 美 術 史	明治四二・二—大正五・九	瀧 精 一
西 洋 史	明治四二・九—大正一〇・四	中 村 善 太 郎
國 史	明治四二・九—四四・五	幸 田 成 友
英 語	明治四三・四—四四・九	Morton Dexter Dunning
露 西 亞 語	明治四三・九—四五・八	三 井 道 郎
經 濟 地 理	明治四三・九—大正二・八	中 目 覺

舊 職 員

二九一

露西亞語 大正元・九―三・七

獨文 學 大正二―一・三 大正一四九―昭和一二・三

羅甸語 大正二・九―四・五

朝鮮史 大正二・一二―五・九

宗教學 大正三・九―一五・三

露西亞語 大正三・一一―九・四(死亡)

佛教學 大正四・九―昭和六・三

西藏語 大正四・九―昭和二・三

心理學 大正四・九―五・九

支那文學 大正五・九―一〇・八

朝鮮語 大正五・九―九・一〇

梵文學 大正七―昭和一四

露西亞語 大正九・一一―一二・三

哲學 大正一〇・五―昭和二・四

社會學 大正一〇・九―一一・一〇

獨逸語 大正一〇・八―一四・八

羅甸語 大正一一・八―昭和三・三 昭和三・九―九・三

露西亞語 大正一二・四―昭和四・八

佛蘭西語 大正一二・一一―一四・三

小西 增太郎

F. O. Hellfritsch

田村 初太郎

河合 弘民

日野 眞澄

山口 茂一

齋藤 唯信

寺本 婉雅

大槻 快尊

西村 時彦

多田 桓

文學博士 常磐 井堯猷

目時 金吾

法學博士 左右田 喜一郎

十時 彌

片山 正雄

Charles G. Elder

N. A. Nevsky

Oreste Plehner

西洋史	大正一三・三一—一五・三	昭和三・二二—六・三	昭和一七前	文學博士	大類	仲
有職故實	大正一三・四—昭和五・一				關保之助	
希臘語	大正一三・六—昭和六・三				菊地慧一郎	
獨逸文學	大正一四・四—昭和二・五	昭和二・八一—七・三			Hans Überschal	
アラビア語	大正一四・四—昭和四・八				松本重彦	
地理學	大正一四—昭和二二				小野鐵二	
獨文學	大正一四・一〇—昭和一五			文學博士	雪山俊夫	
國史	大正一四、昭和二、六、八、一〇、一二、一四、一六、一七後				藤井甚太郎	
佛蘭西文學	大正一四・五—一五・三				Adolf Wagner	
佛蘭西文學	大正一五・四—昭和四・八				Marcel Robert	
社會學	大正一五・一〇—昭和八・三、一五				戸田貞三	
社會學	大正一五・四—昭和八・三			法學博士	三浦新七	
支那語	大正一五・一〇—昭和一七				徐仁怡	
考古學	昭和二・四—八・三				原田淑人	
佛敎學	昭和二—三				手島文倉	
社會學	昭和二・四—三・八(死亡)				五十嵐信	
宗敎學	昭和二—二・五			文學博士	山谷省吾	
日本佛敎史	昭和三				山田文昭	
西洋史	昭和三				石田幹之助	

舊職員

教育學 昭和三、五、七、九、昭和一二三・六(死亡)

文學博士 高橋俊乘

地理學 昭和三、九、一〇

春本篤夫

心理學 昭和四一八 昭和二三一八

高木貞二

社會學 昭和四一六

今井時郎

國文學 昭和四一六 昭和一一、一三、一五

能勢朝次

印度哲學 昭和四

田村德海

日蘭外交史 昭和四

W. H. de Rooss

國史 昭和四、五、七、九

大塚武松

露西亞語 昭和四・八一二四

十時惟親

日本華嚴宗史 昭和五

河野法雲

社會學 昭和五

岩崎卯一

伊太利語 昭和五一六

Alfonso Gasco

佛蘭西文學 昭和五一六 昭和一一三・一一

文學博士 Geoges Bonnear

佛蘭西文學 昭和五・四一六・七

Roger Ballet

日本美術史 昭和六

福井利吉郎

日本淨土宗史 昭和六

林彦明

東洋史 昭和六一一七

鴛淵一

言語學 昭和六・九一一〇

Henri Garnier

佛蘭西文學 昭和七一八 昭和一一、二四

須田國太郎

西洋美術史

佛蘭西文學 昭和七・四一八・六

日本眞言宗史 昭和七

國史 昭和七、九

支那語學 昭和七一一六

支那文學 昭和七、一〇

東洋史 昭和七一一一

國文學 昭和七一一一

梵語學 昭和七一一一

梵文學 昭和七・二〇一一二

考古學 昭和八

國文學 昭和八一九 昭和二二一一六

西洋史 昭和八一九、昭和一三、一七後

眞宗史 昭和八

教育學教授法 昭和八、一一

東洋史 昭和八

神道史 昭和八

英文學 昭和八

佛蘭西文學 昭和八・一一一一〇・六

國史 昭和八、一〇

國史 昭和八、一〇、一二、一四・九(死亡)

Albert Lautman

梶尾祥雲

文學博士 辻善之助

傅芸子

和田清

市川寬

高島寬我

島田貞彥

文學博士 佐々木信綱

佐伯梅友

岡島誠太郎

上杉文秀

文學博士 篠原助市

池內宏

村岡典嗣

土居光知

文學博士 黑板勝美

Paul Iseler 牧野信之助

伊太利語	昭和八—二四・五 五—二六(講師)	昭和二	文學博士	黑田正利
日本神祇史	昭和八—一八		文學博士	宮地直一
佛敎學	昭和九			花田凌雲
英文學	昭和九			F. L. Huntley
國文學	昭和九			久松潛一
英文學	昭和九、二三、二五、二六、二九		文學博士	矢野不積
國史	昭和九、一五			原田敏明
東洋史	昭和九		文學博士	加藤繁
國史	昭和九、一一、昭和一三—二一		文學博士	魚澄惣五郎
氣象學	昭和九		理學博士	岡田武松
心理學	昭和九—一八			岡田道固
國史	昭和九、一二			柳田國男
教育學教授法	昭和九—二二		文學博士	長田新
美術史	昭和九—一八前 昭和二七—二八			源豐宗
有職故實	昭和九—一三			出雲路通次郎
英文學	昭和九—二一		文學博士	細江逸記
哲學	昭和一〇			土井虎賀壽
印度哲學史	昭和一〇—三〇		文學博士	山口益
美學	昭和一〇			中井正一

佛敎學	昭和一〇		望月歡厚
西洋史	昭和一〇、昭和一五—二四、五、昭和二四・六—二四・八(專講)	文學博士	村田數之亮
英文學	昭和三四・九—二六(講師)		竹友肅雄
英文學	昭和一〇—一四		Alfred J. Singleton
佛蘭西文學	昭和一〇		Pierre Bertrand
佛敎學	昭和一一—一二、一三、一六	文學博士	禿氏祐祥
東洋史	昭和一一		岡崎文夫
東洋史	昭和一一、一六		杉本直治郎
西洋史	昭和一一		千代田謙
西洋史	昭和一一		田中秀作
英文學	昭和一一—一五		Alexander Ashton
英文學	昭和一一		C. J. L. Bates
獨逸文學	昭和一一—一二		內山貞三郎
國語學	昭和一一、一七前	文學博士	宇野圓空
國語學	昭和一一、一二、一四、一七、一八前		島田退藏
國語學	昭和一一—一二	文學博士	春日政治
國文學	昭和一一—一二	文學博士	片山正直
宗敎學	昭和一一—一五、昭和一一七、二二、昭和二八—二九		Karl Löwith
社會學	昭和一二		石濱純太郎
東洋史	昭和一二—二五		

舊職員

地理學 昭和一二—一八

室賀信夫

英文學 昭和一二—一三

H. F. Woodsworth

言語學 昭和一二—一七前

文學博士 金田一京助

佛蘭西語 昭和一二

新村猛

佛蘭西文學 昭和一二・三一—一五・七

Robert Schinzinger

西洋哲學史 昭和一二・一〇—二五・三

Cardon de Montigny

西洋哲學史 昭和一二・一五、一七、一八

三井浩

社會學 昭和一二—一五 昭和一二

文學博士 下村寅太郎

地理學 昭和一二—一三

松本潤一郎

地理學 昭和一二—一三

池邊展生

國語學 昭和一二—一五

藤田元春

國語學 昭和一二—一四、昭和一二—一八

文學博士 橋本進吉

梵語學 昭和一二—一五

Erwin Jahm

梵語學 昭和一二・一六、一七後

黑田親

社會學 昭和一二—一三

文學博士 赤松智城

國史 昭和一二—一二

古野清人

地理學 昭和一二—一四—一五

東伏見邦英

西洋古典文學 昭和一二—一四

米倉二郎

西洋古典文學

John A. Plicher

國史 昭和一四

國史 昭和一四

英文學 昭和四一〇一—一六

支那哲學史 昭和一五

宗教學 昭和一六

社會學 昭和一六

伊太利語學 昭和一六一—一八

伊太利文學 昭和一六一—一八

言語學 昭和一六一—一八

佛蘭西語 昭和一六

國史 昭和一六一—一八

社會學 昭和一七前

佛敎學 昭和一七

西洋史 昭和一七—一八、昭和二一—二三、昭和二七、三〇

地理學 昭和一七前

英文學 昭和一七—一八

言語學 昭和一七

支那語學 昭和一七前

支那文學 昭和一七前

佛蘭西語 昭和一七—一八

文學博士 清原真雄
文學博士 折口信夫

Arthur P. McKenzie

常磐井賢十

長澤信壽

奧井復太郎

Fosco Maraini

小田良弼

市村惠吾

吉田三郎

難波紋吉

釘宮武雄

中山治一

川上健三

一柳米來留

三田村泰助

陳希昌

鄭兆麟

大坪一

舊職員

獨逸文學 昭和一七、昭和二〇—二三

文學博士

小牧健夫

社會學 昭和一七

牧野巽

支那語學 昭和一七

陳野

支那文學 昭和一七・九—二〇・九

羅繼祖

支那語學 昭和一七・九—二〇・五

王之淳

心理學 昭和一七—一八

內藤耕次郎

英文學 昭和一七—一八

兼弘正雄

東洋史 昭和一七

內田吟風

東洋史 昭和一七、昭和一九—二〇

外山軍治

支那語 昭和一七—二三

金子二郎

地理學 昭和一七後

松井武敏

東洋史 昭和一八—二一

愛宕松男

地理學 昭和一八

別技篤彦

亞刺比亞語 昭和一八—二二

林春三

馬來語 昭和一八—二〇

內藤春三

英文學 昭和一九—二六

堀正人

昭和二四・六—二六(專講)

昭和二七(講師)

心理學 昭和一九・二—二四・五

西洋哲學史 昭和二〇—二一・五

八木正晃

倫理學 昭和二〇

多賀瑞心

室田泰一

支那語學	昭和二〇・五—二一	昭和二八・一〇—二九・三
支那文學	昭和二一—二四・五	昭和二四・六—二五(專講)
哲學	昭和二一	
英文學	昭和二一後	昭和二三
國史	昭和二一、三〇	
美術美術史	昭和二一—二五	
英文學	昭和二二	
考古學	昭和二三	
支那語學	昭和二三—二五	
支那文學	昭和二三	
西洋哲學史	昭和二三	
倫理學	昭和二三	
美學美術史	昭和二三	
圖書館學	昭和二三—二四	
圖書館學	昭和二三—二四	
地理學	昭和二三—二四	
基督教學	昭和二四—二五	
東洋史學	昭和二四—二九	
支那哲學史	昭和二四—二六	
國史	昭和二四	
支那語	昭和二四—二七	

舊職員

文學博士	金 毓 本
文學博士	大 島 康 正
文學博士	Patric James Byrne
文學博士	平 山 敏 治 郎
文學博士	島 田 脩 二 郎
文學博士	大 塚 高 信
文學博士	淺 野 清
文學博士	陳 來 峰
文學博士	Paul Egli
文學博士	田 中 熙
文學博士	土 居 次 義
文學博士	大 佐 三 四 五
文學博士	田 中 敬
文學博士	喜 多 村 俊 夫
文學博士	山 崎 亨
文學博士	村 上 嘉 實
文學博士	森 三 樹 三 郎
文學博士	西 岡 虎 之 助
文學博士	伊 地 智 善 繼

教育學教授法 昭和二四

教育學教授法 昭和二五

國史學 昭和二五

地理學 昭和二五—三〇

國語學 昭和二五

教育學教授法 昭和二五

佛蘭西文學 昭和二五—二六

美學美術史 昭和二五

國史學 昭和二五

支那語學 昭和二五—二七

支那文學 昭和二五

國語學 昭和二五

國文學 昭和二六、二八、二九

哲學 昭和二六—二七

佛敎學 昭和二六

教育學教授法 昭和二六

美學美術史 昭和二六

基督敎學 昭和二六—三〇

哲學 昭和二六、二八

國史學 昭和二六

前田 博

廣岡 亮藏

橫田 健一

村松 繁樹

小島 吉雄

末永 俊郎

Georges Albert Lance

張源 祥

時野 谷勝

黎波

文學博士 家永 三郎

金田 一春彦

山元 一郎

舟橋 一哉

黑丸 正四郎

佐和 隆研

Gwilym G. Lloyd

伊藤 藤誠

文學博士 岩生 成一

國史學	昭和二六	大間知篤三
國語學	昭和二六	吉田精一
朝鮮語	昭和二六	河野六郎
西洋古典文學	昭和二六、二九	文學博士 神田盾夫
英文學	昭和二七	文學博士 藏內藪太
社會學	昭和二七	Gregory J. Gilmartin
國史學	昭和二七—三〇	石田一良
國語學	昭和二七、三〇	山崎喜好
國語學	昭和二七、三〇	谷山茂
中國文學	昭和二七	文學博士 橋本循
英文學	昭和二七	老田三郎
言語學	昭和二七—三一・四(死亡)	山崎忠
言語學	昭和二七	富田竹二郎
西洋古典文學	昭和二七—二八	原納一富
伊太利語學	昭和二七—二八	Enrico Gallo
伊太利文學	昭和二七、三〇	近藤洋逸
哲學	昭和二七	文學博士 加藤常賢
支那哲學史	昭和二七	竹內敏雄
美學美術史	昭和二七	小野忍
中國語學	昭和二七—二八	
中國文學	昭和二七—二八	

舊職員

哲 學 昭和二八

哲 學 昭和二八

佛 教 學 昭和二八—二九

西 洋 史 學 昭和二八—二九

國 國 文 語 學 昭和二八—二九

國 國 文 語 學 昭和二八—二九

中 國 文 語 學 昭和二八

中 國 文 語 學 昭和二八

支 那 哲 學 史 昭和二八

西 洋 史 學 昭和二八

獨 逸 文 學 昭和二八

言 語 學 昭和二八

佛 蘭 西 文 學 昭和二八

美 學 美 術 史 昭和二九

中 國 文 語 學 昭和二九—三〇

佛 蘭 西 文 語 學 昭和二九

中 國 文 語 學 昭和二九

社 會 學 昭和二九—三〇

美 學 美 術 史 昭和二九—三〇

齋 藤 信 治

平 下 欣 一

安 藤 俊 雄

今 津 晃

中 村 幸 彦

岡 見 正 雄

岳 守 謙

後 藤 俊 瑞

水 川 溫 二

原 田 義 人

德 永 康 元

有 永 弘 人

蓮 實 重 康

增 田 涉

渡 邊 一 夫

藤 野 岩 友

岡 崎 文 規

野 村 良 雄

井 筒 俊 彦

文 學 博 士

文 學 博 士

文 學 博 士

國語文學	國語文學	國語文學	國語文學	國語文學	國語文學	國語文學	佛敎學	國語文學	國語文學	國語文學	人文地理學	東洋史學	美學美術史	獨逸文學	獨逸文學	西洋史學	支那哲學史	國語文學
昭和二九	昭和二九	昭和二九	昭和三〇	昭和三〇	昭和三〇	昭和三〇	昭和三〇	昭和三〇	昭和三〇	昭和三〇	昭和三〇	昭和三〇	昭和三〇	昭和二九	昭和二九	昭和二九	昭和二九	昭和二九

舊職員

文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士
三村勉	高津春繁	鈴木信太郎	增田四郎	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志
三村勉	高津春繁	鈴木信太郎	增田四郎	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志	宮川尙志

Dennis J. Enright

事務主任・事務長

明治三九・一〇・五——昭和七・一・九
昭和七・一・一〇——昭和一二・二・二〇
昭和一二・二・二〇——昭和一四・八・三一
昭和一四・九・一——昭和一六・八・三一
昭和一六・九・一——昭和二三・九・二三
昭和二三・九・二三——昭和二六・八・一六
昭和二六・八・一六——昭和二九・七・一五

伊津野 直
吉田 係一
上島竹三郎
吉田 良馬
生駒 正教
水野喜久三
吉田 良馬

研究室・事務室組織

學部長

教授 吉川幸次郎

教養部

教授 田村松平

哲學科

哲學研究室

教授 三宅剛一

印度哲學史研究室

教育學部

教授 高坂正顯

教授 松尾義海

講師 森口美都男

講師 佐保田鶴治

講師 澤瀉久敬

講師 中野義照

講師 G. Krauss

支那哲學史研究室

助手 酒井修

教授 重澤俊郎

西洋哲學史研究室

教授 田中美知太郎

講師 湯淺幸孫

教授 高田三郎

講師 本田濟

教授 野田又夫

講師 福永光司

研究室・事務室組織

雇 川勝裕子

四〇七

心理學研究室

教授 欠田部達郎

教授 園原太郎

教養部 教授 佐藤幸治

助教授 柿崎祐一

講師 本吉良治

講師 今田 惠

講師 廣田君美

講師 辻岡美延

講師 岩原信九郎

助手 木下富雄

助手 矢守章二

教授 島 芳夫

教養部 助教授 保田 清

講師 岸 畑 豐

美學美術史研究室

教授 井島 勉

教養部 教授 上野照夫

教養部 助教授 梶野 腺

講師 吉川逸治

講師 新 規矩男

講師 河本敦夫

助手 吉岡健二郎

上平 貢

社會學研究室

教授 白井二尙

教養部 教授 姬岡 勤

教養部 教授 江藤則義

助教授 池田義祐

教育學部 助教授 渡邊洋二

講師 杉之原壽一

講師 J. H. Steward

助手 益田庄三

雇 坂口 清

宗教學研究室

教授 西谷啓治

助教授 武內義範

佛教學研究室

助教授 武藤一雄
講師 棚瀬襄爾
東洋史研究室

人文科學研究所
教授 長尾雅人
教授 塚本善隆
助手 藤吉恣海
助手 梶山雄一

史學科

國史研究室

教授 小葉田淳
教授 赤松俊秀
教授 柴田實
助教授 岸俊男
教養部

西洋史研究室

講師 三品彰英
講師 林屋辰三郎
講師 梅溪昇
助手 門脇禎二
小久保淑子

人文科學研究所
教授 宮崎市定
教授 田村實造
教授 塚本善隆
教授 安部健夫
教授 羽田明
助教授 佐伯富
助教授 佐藤長
助教授 島田虔次
講師 曾我部靜雄
助手 里井彥七郎
萩原淳平

教授 原隨園
教授 井上智勇
教授 中原與茂九郎
助教授 前川貞次郎
助教授 豐田堯
教養部
講師 越智武臣

地理學研究室

講師 岡部 健彦
助手 加藤 一朗

教授 織田 武雄

教養部 教授 藤岡 謙二郎

人文科學 教授 森 鹿三

研究所 助教授 西村 睦男

人文科學 講師 日比野 丈夫

講師 帷子 二郎

講師 野間 三郎

講師 小野 三正

助手 末尾 至行

考古學研究室

人文科學 教授 長廣 敏雄

研究所 教授 水野 清一

助教授 有光 教一

講師 小林 行雄

講師 山內 清男

助手 横山 浩一

史學科共通

四一〇
助手 西谷 眞治
西井 千津子

獨書講讀

佛書講讀

英書講讀

文學科

國語學國文學研究室

講師 越智 武臣
講師 樋口 隆康
助手 加藤 一朗

教授 遠藤 嘉基

教授 野間 光辰

教養部 教授 池上 禎造

助教授 濱田 敦

教養部 助教授 阪倉 篤義

講師 玉上 琢彌

講師 小島 憲之

講師 鹽田 良平

助手 柘源 一

中國語學中國文學研究室

人文科學
研究所

教授 吉川幸次郎
 教授 小川環樹
 助教授 田中謙二
 講師 徐新元
 講師 神田喜一郎
 講師 斯波六郎
 講師 高木正一
 雇員 西村富美子

梵語學梵文學研究室

フランス語學フランス文學研究室

人文科學
研究所

教授 足利悖氏
 講師 伊藤義教
 講師 善波周
 講師 澤英三
 講師 大地原豐
 助手 井本英一
 教授 伊吹武彦
 教授 桑原武夫

英語學英文學研究室

講師 J. P. Hauchecorne
 (休職) 助手 大橋保夫

教養部 教授 生島遼一
 教養部 教授 田中俊一
 教養部 助教授 林憲一郎
 教養部 助教授 木城格
 教養部 助教授 渡邊明正
 教養部 助教授 後藤敏雄
 教授 中西信太郎
 教授 山本修二
 教養部 教授 小林象三
 教養部 教授 池田義一郎
 教養部 教授 村上至孝
 教養部 教授 宮西光雄
 助教授 御興員三
 助教授 菅泰男
 教養部 助教授 川田周雄
 教養部 助教授 森清

研究室・事務室組織

講師 J. C. Murrett
 講師 R. H. Grant
 講師 A. S. Thwaite
 講師 山本忠雄
 講師 工藤好美
 講師 N. E. Nelson
 助手 中沼了

ドイツ語學ドイツ文學研究室

教授 太山定一
 教授 古松貞一
 教授 若林光夫
 教授 谷友幸
 教授 高安國世
 教授 石川敬三
 教授 鹽谷饒
 教授 田川基三
 講師 三浦アンナ
 助手 林功三

イタリア語學イタリア文學研究室

助教授 松平千秋
 講師 小川政恭
 講師 中村善也
 講師 山田晶
 講師 岡田正三
 講師 鈴木照雄
 講師 關本至
 助手 柳沼重剛

言語學研究室

教授 野上素一
 講師 宮本幸三郎
 講師 A. Bencivenni
 講師 林一郎
 助手 池田廉
 教授 泉井久之助
 講師 澤英三
 講師 大地原豊
 講師 鄭寅燮

各科共通

講師 西田龍雄
講師 關本至
助手 井本英一

中國語
フランス語

事務室

人文科學研究所
講師 清水雄二郎
助手 多田道太郎

事務長

事務官 城田榮一

文學概論

教授 野上素一

ギリシア語

助教授 松平千秋

庶務掛

雇 荒川順太郎

チベット語

助教授 佐藤長

庶務掛長

事務官 木村治雄

ロシア語

教養部

助教授 植野修司

雇 萩原陽雄

ギリシア語

講師 鈴木照夫

川並直子

ラテン語

講師 中村善也

青木富美子

ラテン語

講師 山田晶

會計掛

事務官 松井重治

スペイン語

講師 國澤慶一

會計掛長

事務官 戸田正義

アラビア語

講師 藤本勝次

各學部共通

雇 松村昭一

ギリシア語

助教授 松平千秋

雇 林茂

ラテン語

講師 中村善也

教務掛

ドイツ語

講師 大城功

教務掛長

事務官 加藤勇

研究室・事務室組織

四一三

圖書室長

受入掛

受入掛長

目錄掛

目錄掛長

事務官 六浦 眞然

教官 佐々木 邦彦

雇 内藤 朋子

雇 國枝しづ子

雇 鈴木千恵子

雇 鷺田清一

雇 田中直夫

事務官 谷口寛一郎

(兼) 谷口寛一郎

雇 大森喜代子

新海 壽子

中村 久藏

宮本信一郎

教官 村橋 瑠璃 嬰

事務官 寺本 玲子

雇 小森 富美子

運用掛

運用掛長

哲學科

史學科

文學科

寫眞掛

自動車掛

教官 高橋 猪之介

石田 國太郎

雇 平井 瑠璃子

雇 安田 健

安田 圭子

雇 坂田 吉彦

雇 立石 サ々

雇 小關 清治郎

森 島 達

學位受領者表

本學部教授會の審査を経て授與されたものを學位記番號順に記す

舊學位令による文學博士 (明治二十年五月二十日公布勅令第一三號および明治三十一年十二月九日公布勅令第三四四號によるもの)

受領年月日	主 題 及 題 目	本 籍	氏 名
大正一〇・一二・二〇	社會結果論	佐賀	高田保馬
大正一一・五・二七	唐代ノ回鶻ニ關スル研究	京都	羽田亨
大正一一・六・三	The Principles of the Education of Thought	山形	岡部爲吉
大正一一・六・七	朝鮮史の研究	岐阜	今西龍
大正一一・一二・一八	心理學ノ對象	宮城	千葉胤成
大正一二・一・二五	兩眼視現象の研究に就て	熊本	黒田源次
大正一二・一・二五	原始的神聖觀念の研究	山口	赤松智城
大正一二・一・二五	精神的動作之發達	岡山	檜崎淺太郎
大正一四・一二・一五	日本の音樂に就ての一觀察	山口	兼常清佐
昭和三・三・一	古韻ノ變遷	神奈川	大島止健
昭和七・一〇・三一	佛教之美術及歴史	神奈川	小野玄妙

新學位令による文學博士 (大正九年七月五日公布勅令第二〇〇號によるもの)

大正一三・五・一二	王朝の庶民階級	大阪	西田直二郎
大正一四・七・二〇	銅銚銅劍の研究	宮城	高橋健自
大正一四・七・三一	假名ノ研究	新潟	大矢 秀
大正一五・八・二二	徳川幕府神社制度ノ研究	大分	清原貞雄
大正一五・八・二二	佛敎ニ於ケル二大唯心論	新潟	齋藤唯信
昭和二・四・二三	北宋五子哲學	兵庫	松山直藏
昭和三・四・六	老子 原始	三重	武内義雄
昭和三・七・一八	平安朝女裝ノ史的研究	東京	櫻井 秀
昭和三・一〇・一一	歐洲中世史初頭に於ける國家的社會的轉換期に關する研究	京都	植村清之助
昭和四・四・一	藝術 哲學	京都	植田壽藏
昭和五・四・一八	認識の存在論的基礎	京都	山内得立
昭和五・九・三	疾風怒濤時代と現代獨逸文學	東京	成瀬清
昭和五・九・三	De Quin Particula Latina Eiusque Usu Historico	愛媛	田中秀央
昭和五・九・一三	The Hohenzollern Testaments and the Diplomatic Policy of the two Electors	東京	長壽吉
昭和五・九・一三	教育ノ本質ト教育學	愛媛	篠原助市

昭和六・一・一〇	萬葉集仙覺本の研究	東京	武田祐吉
昭和六・四・一	Wilhelm Dilthey's Methode der Lebensphilosophie	島根	勝部謙造
昭和六・四・八	Die aeußeren Hauptursachen der Entwicklung der scholastischen Philosophie im Mittelalter	宮城	佐藤清太郎
昭和六・六・八	「純粹理性批判」ノ形而上學的性格	神奈川	天野貞祐
昭和六・六・八	支那古代社會の研究	高知	小島祐馬
昭和六・七・一三	支那經學史論	岐阜	本田成之
昭和六・九・二二	「テ・コメデ・ヌメーヌ」の研究	京都	太宰施門
昭和六・九・二二	玉篇ノ研究	福井	岡井慎吾
昭和七・六・二〇	光海君時代ノ滿鮮關係	新潟	稻葉岩吉
昭和七・七・一五	原始佛敎の實踐哲學	兵庫	和辻哲郎
昭和七・一一・一〇	偶然性	東京	九鬼周造
昭和八・一・二六	「ロマ書講解」に現れしルッターの根本思想	福島	佐藤繁彦
昭和八・二・二〇	ペスタロッチー	長野	長田新
昭和八・五・二二	テヘウス傳説考	愛知	原隨園
昭和八・五・二二	普埃戰役に關するビスマルクの外交	茨城	時野谷常三郎
昭和八・一〇・一四	ジョンソン博士とその群	山口	石田憲次
昭和九・七・二五	西域佛敎ノ特徵	福井	羽田了諦
昭和九・八・一八	印度學方法論より觀たる法華經	京都	本田義英

學位受領者表

昭和九・八・二七 *Riyô et Minyô ou L'Expression poétique dans le*

Folk-Lore Japonais

佛 國 ジョルジュ・ボノー

昭和一〇・五・一五 ヘーゲル精神現象ト客觀的精神ノ研究

長 野 務 臺 理 作

昭和一〇・五・二四 支那近世戯曲史

山 口 青 木 正 兒

昭和一〇・五・二四 魏晉南北朝時代に於ける經濟並に社會制に關する研究

富 山 岡 崎 文 夫

昭和一〇・七・八 アーノルドの文學論

岡 山 矢 野 禾 積

昭和一〇・七・八 ニーベルンゲンの歌基礎の研究

富 山 雪 山 俊 夫

昭和一〇・九・四 上代歌謡の作者及び時代考

三 重 澤 瀉 久 孝

昭和一一・六・九 連歌の史的研究

東 京 福 井 久 藏

昭和一一・九・一 假名の發達より觀たる國語文體の成立

長 野 春 日 政 治

昭和一一・九・一四 *A Comparative Study of English with Special Reference*

to the Cursor Mund, the Northern Passion, the Gospel

of Nicodemus, the Life of Saint Anne, and a Stanzaic

Life of Christ 岐 阜 木 方 庸 助

昭和一一・一一・二二 *デュージ・エリオットの作品に用いられたる英國中部地方*

三 重 細 江 逸 記

言の研究

昭和一一・一一・二二 ジョアン・ロドリゲスの著せる日本文典の研究

廣 島 土 井 忠 生

昭和一一・一一・二二 具體的言語と抽象的言語(言語學的文學論)

東 京 落 合 太 郎

昭和一二・七・六 パウロの神學

岡 山 山 谷 省 吾

昭和一二・八・五	先史地理學研究	滋賀	小牧實繁
昭和一二・八・五	運動把握に關する研究	兵庫	福富一郎
昭和二三・四・一六	唐の開元末天寶初期の交が時世の一變轉たるの考證並に主として燉煌發見史料に據る天寶以後唐末に至る期間の庶民に關する二三の研究	徳島	那波利貞
昭和一四・三・四	教育學の方法についての一考察	京都	伊藤典
昭和一四・三・三〇	支那青銅器時代の研究	大阪	梅原未治
昭和一四・三・三〇	段愨堂の音學	新瀉	倉石武四郎
昭和一四・一一・二四	倫理學序説——倫理學の認識論的基礎	廣島	世良壽男
昭和一五・三・一三	歴史的世界 現象學的試論	愛知	高坂止顯
昭和一五・三・一三	實踐的存在の基礎構造	石川	木村素衛
昭和一五・七・八	近代獨逸思潮史	東京	吹田順助
昭和一六・四・九	祕密佛教の研究	和歌山	梶尾祥雲
昭和一七・一・一九	文選李善注所引尙書の研究	石川	斯波六郎
昭和一八・六・二一	佛教に於ける無と有との對論	京都	山本口益
昭和一八・七・二四	學の形成と自然的世界	岡山	三宅剛一
昭和一九・六・一四	有部阿毘達磨論の研究	島根	渡邊榎雄
昭和九・一・八	宗教ノ眞理	愛知	片山正直
昭和九・一一・一三	宗祖としての道元禪師	東京	衛藤即應

昭和二〇・五・二五	行爲の全體的構造	福井 島 芳 夫
昭和二〇・六・二五	社會と民族	長野 白 井 二 尙
昭和二〇・八・一五	行爲的世界	神奈川 柳 田 謙 十 郎
昭和二〇・九・三〇	宗 教 哲 學	石川 西 谷 啓 治
昭和二〇・一一・一五	哲學的人間學	山形 高 山 岩 男
昭和二〇・一一・二七	無限論の形成と構造	京都 下 村 寅 太 郎
昭和二〇・一一・二七	ヘルデルリンの自然觀の發展	東京 小 牧 健 夫
昭和二〇・一一・二七	ゲーテと「ファウスト」	滋賀 奥 津 彦 重
昭和二一・一一・二〇	方言語彙學的研究	東京 小 林 好 日
昭和二一・一一・二五	莊園の研究	滋賀 中 村 直 勝
昭和二一・一二・一九	東洋文庫本華夷譯語百夷館雜字並に來文の解讀 その釋字・	
	釋語・釋文と言語比較的研究	京都 泉 井 久 之 助
昭和二一・一二・一九	蓮如上人と安藝蓮崇	山口 伊 藤 義 賢
昭和二一・一二・一九	オリゲネス研究	京都 有 賀 鐵 太 郎
昭和二一・一二・一九	建武中興を契機とせる政治社會情勢の推移についての考察	兵庫 魚 澄 惣 五 郎
昭和二一・一二・一九	文體論の建設	東京 小 林 英 夫
昭和二三・一・三一	東廻海運及び西廻海運の研究	愛知 古 田 良
昭和二三・一・三一	中世日支通交貿易史の研究	福井 小 葉 田 淳
昭和二三・一・三一	新羅花郎の研究	滋賀 三 品 彰 英

昭和三二・一・三一	The Origin and Evolution of the Semitic Alphabets	東京	小辻節三
昭和二三・一・三一	日支交通の研究	京都	藤田元春
昭和二三・三・一九	藝術の創造と歴史	京都	井島勉
昭和二三・三・一九	天道と人道	廣島	下程勇吉
昭和二三・四・一〇	元雜劇研究	兵庫	吉川幸次郎
昭和二三・四・一〇	五代宋初の通貨問題	長野	宮崎市定
昭和二三・五・六	遼代社會經濟史に關する研究	香川	田村實造
昭和二三・五・六	蕪村の傳記の研究	長崎	頴原退藏
昭和二三・一・三一	宮座の研究	茨城	肥後和男
昭和二三・一〇・二三	東洋的無の性格	岐阜	久松眞一
昭和二三・一一・二〇	阿倍仲麻呂傳研究	滋賀	杉本直治郎
昭和二三・一一・一八	清初八旗制度考	長崎	鴛淵一
昭和二三・一二・五	宋代財政史	徳島	曾我部靜雄
昭和二三・二・二七	北魏佛敎史之研究	京都	塚本善隆
昭和二三・四・八	クレタ文明の性格	京都	村田數之亮
昭和二三・五・一三	ローマ經濟史の研究	兵庫	井上智勇
昭和二三・五・一三	中世武家故實の研究	徳島	藤直幹
昭和三四・三・三	DANTE の詩と關する MANIFESTO 特記 PURGA TORIO, XXIV, 49—63 の研究	岡山	黒田正利

昭和二四・五・三〇 Studies in Early Modern English (初期近代英語の研究)

昭和二四・五・三〇 シェクスピア批評史研究 岡山 大塚 高信
 昭和二四・九・二〇 古代印度に於けるイラン文化の影響に関する文献學的研究 京都 中西 信太郎

昭和二四・二・二七 漢魏六朝文學思想論 東京 足利 惇氏

昭和二五・二・二 經學研究 福井 橋本 循

昭和二五・四・一二 ログスとイデア 東京 重澤 俊郎

昭和二五・一・二八 支那訓詁學上より見たる日本書紀古訓攷證 東京 田中美知太郎

昭和二五・七・三 印度論理學派の研究 京都 神田 喜一郎

昭和二五・七・三 中觀哲學の根本的立場 長崎 松尾 義海

昭和二五・八・一〇 訓點資料と訓點語の研究 京都 長尾 雅人

昭和二五・七・一一 ウバニシアット文學と其の哲學思想 鳥取 遠藤 嘉基

昭和二五・一〇・一七 實際的個別智能測定法 兵庫 佐保 田鶴治

昭和二六・四・一八 元明小説史の研究 滋賀 鈴木 治太郎

昭和二六・四・一八 雨月物語研究 京都 小川 環樹

昭和二六・四・二七 A Bibliographical Study of William Blake's Note-book 三 重 後 藤 丹 治

昭和二八・四・三 マーヌシュテフル書翰集の解讀 京都 壽 岳 文章

山口 伊藤 義教

昭和二八・五・二	辯證法的存在論序説	和歌山	岡野留次郎
昭和二八・八・二五	元朝秘史の研究	神奈川	小林高四郎
昭和二八・八・二五	基督教神學概論	東京	桑田秀延
昭和二八・八・二五	魏晉老莊思想の研究	福岡	村上嘉實
昭和二九・一・一九	人文地理學說史——方法論のための學說史的反省——	群馬	飯塚浩二
昭和二九・三・二四	アリストテレスに於ける實踐理性的の構造	東京	藤井義夫
昭和二九・五・七	朝鮮水産業開發過程の地理學的研究	長崎	吉田敬市
昭和三〇・三・七	華嚴に於ける禪	富山	高峰了洲
昭和三〇・一〇・五	古文尙書傳流考	愛知	小林信明
昭和三一・四・一二	古代アジア遊牧民族史の研究	東京	内田吟風
昭和三一・四・一二	漢代社會經濟史的研究	愛知	宇都宮清吉
昭和三一・七・二五	關係把握の研究	山形	佐藤幸治
昭和三一・七・二五	明代建州女直史研究	熊本	園田一龜
昭和三一・八・二三	鐵器時代初期の朝鮮文化	福岡	有光教一